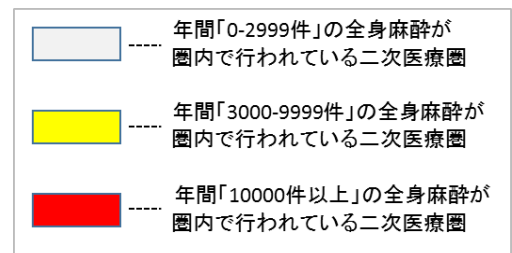
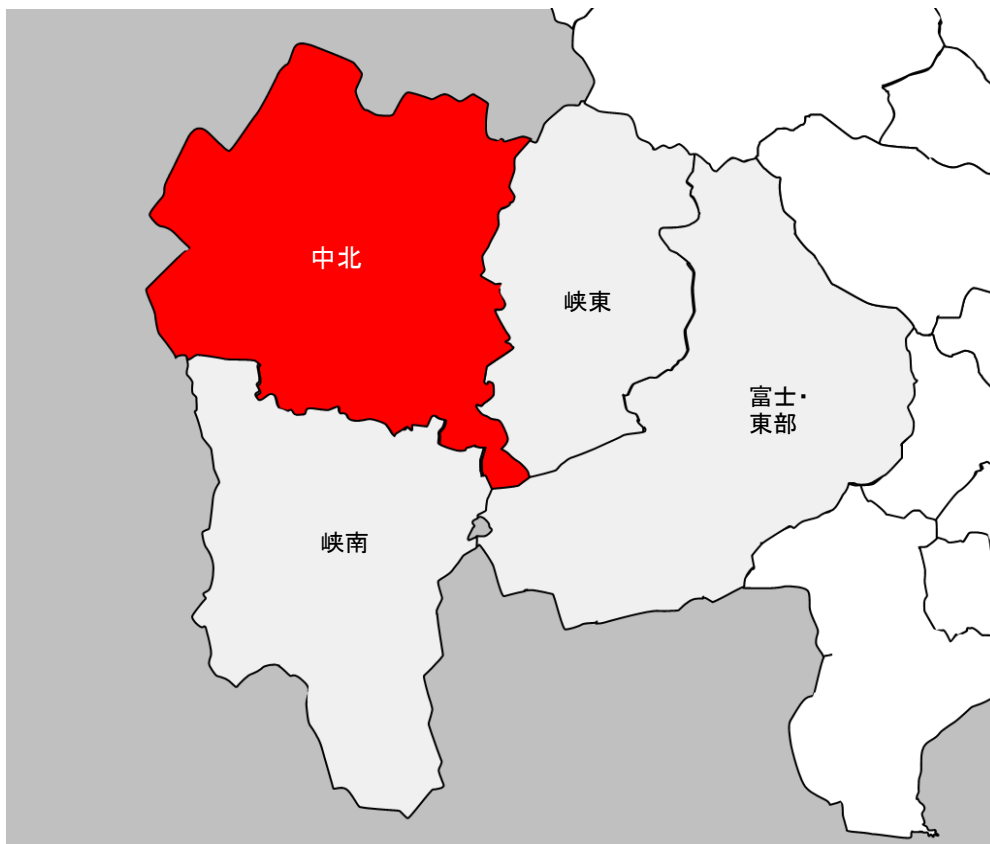


# 19. 山梨県

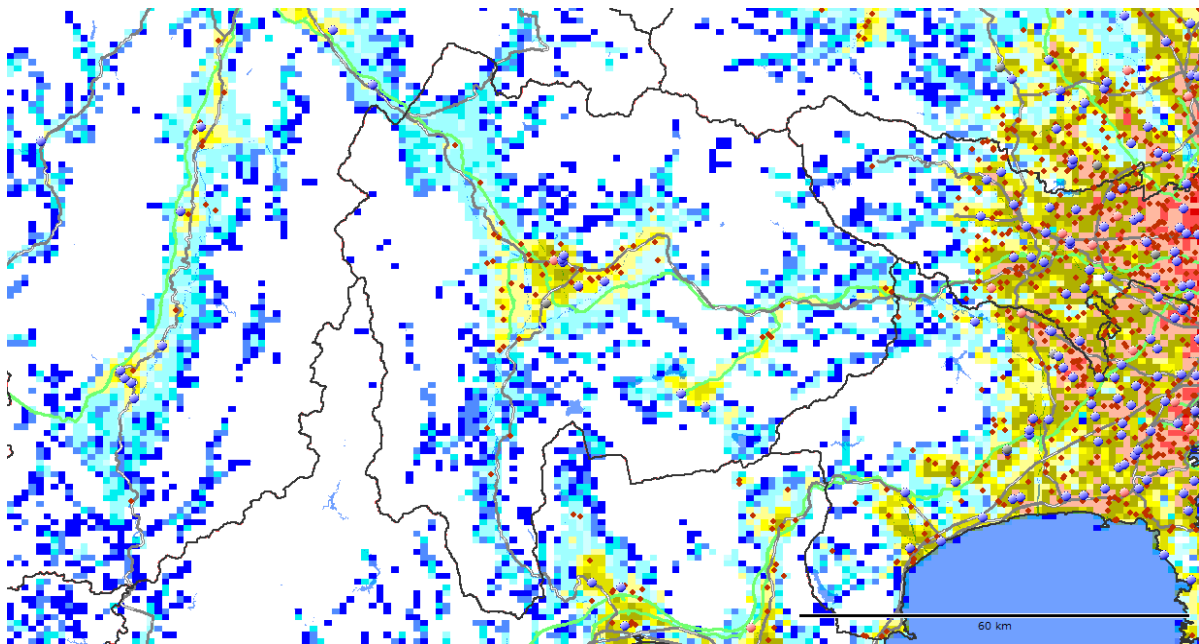


目次

山梨県	19	-	3
資料編 一 当県ならびに二次医療圏別資料	19	-	8
1. 中北医療圏	19	-	20
2. 峡東医療圏	19	-	25
3. 峡南医療圏	19	-	30
4. 富士・東部医療圏	19	-	35

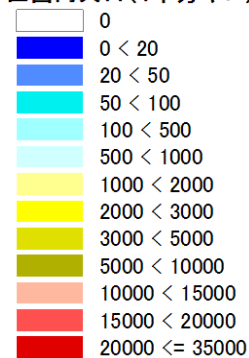
# 19. 山梨県

人口分布 (1km<sup>2</sup>区画単位)



1km<sup>2</sup>区画 (1km<sup>2</sup>メッシュ) で分割した各区画内の居住人口。  
赤色系統は人口が多く (10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は  
中間レベル (1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が  
少ない (1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。  
出所：国勢調査 (平成22年、総務省) 地図情報GIS  
Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ

区画内人口(1平方キロ)



DPC病院



## (山梨県) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

## 【地域の概要】

\*人口、面積など： 山梨県は、総人口約835千人(2015年)、面積4,461km<sup>2</sup>、人口密度は187人/km<sup>2</sup>である。

\*人口の将来予測： 山梨県の総人口は2025年に763千人へと減少し(2015年比-9%)、2040年に642千人へと減少する(2025年比-16%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の121千人が、2025年にかけて151千人へと増加し(2015年比+25%)、2040年には159千人へと増加する(2025年比+5%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費： 山梨県の一人当たり医療費(国保)は334千円(偏差値47)、介護給付費は257千円(偏差値51)であり、医療費はやや低いが、介護給付費は全国平均レベルである。

## 【医療の現状】

\*入院医療の充実度： 山梨県の一人当たり急性期医療密度指数は0.99、一人当たり慢性期医療密度指数は1.04で、急性期の医療も慢性期の医療も全国平均レベルである。

\*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が49(病院医師数49、診療所医師数49)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともにほぼ全国平均レベルである。総看護師数の偏差値は48と全国平均レベルである。

\*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は52で、一般病床は全国平均レベルである。全身麻酔数の偏差値は43と少ない。

\*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は50と療養病床数は全国平均レベルである。

\*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値56と多く、回復期病床数は偏差値60と多い。

\*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は51で精神病床数は全国平均レベルである。

\*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は52で診療所数は全国平均レベルである。

## 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状： 山梨県の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、9,938人(75歳以上1,000人当たりの偏差値37)と全国平均レベルを下回る。そのうち、介護保険施設の定員が6,962床(偏差値47)、高齢者住宅等が2,976床(偏差値39)である。介護保険施設は全国平均レベルをやや下回り、高齢者住宅等は全国平均レベルを下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、9,137人(75歳以上1,000人当たりの偏差値47)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルをやや下回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設49、特別養護老人ホーム48、介護療養型医療施設46、有料老人ホーム41、軽費ホームなし(偏差値43)、グループホーム41、サ高住48である。

\*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値43と少なく、在宅療養支援病院は偏差値49と全国平均レベルである。また、訪問看護ステーションは偏差値36と少ない。介護職員(在宅)の合計は、1,126人(75歳以上1,000人当たりの偏差値42)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

\*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-43%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

## 2. 推移

### 【人口と医療需要】

山梨県の総人口は、2005年884,515人が、2015年に834,930人と6%減少し、2025年の人口が763,274人と予測され、2005年→2025年の間に14%程度の減少が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年に6%増加し、2015年から2025年にかけて2%程度の増加が予測される。

### 【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

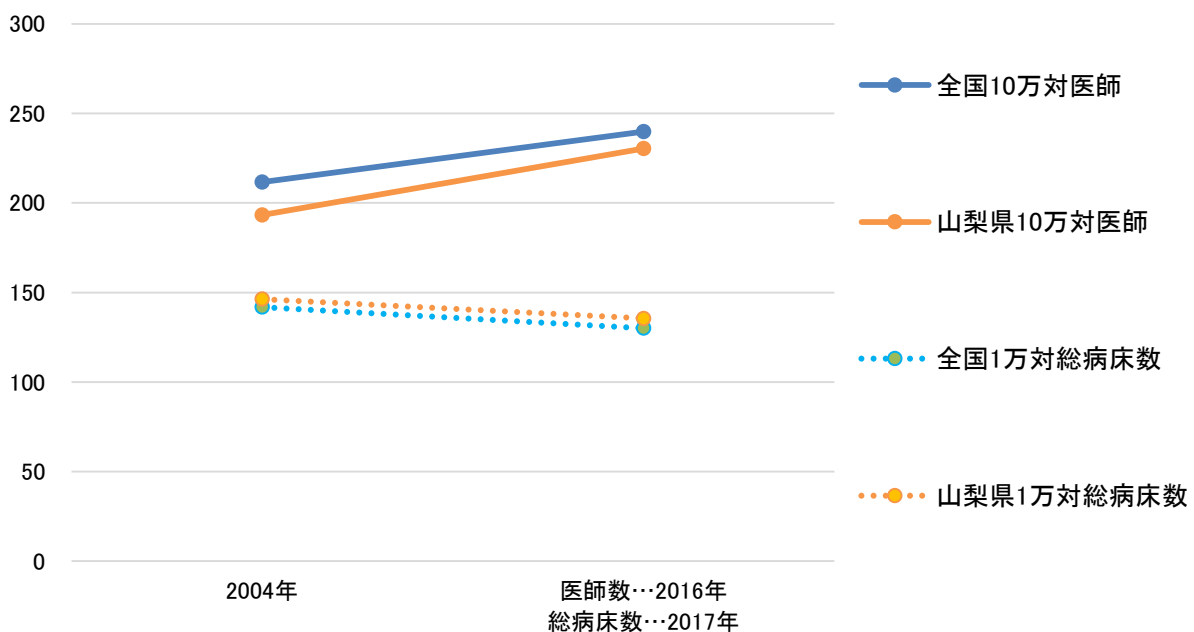
2004年の病院数が63(人口10万人当たり7.1病院(全国平均7.1)偏差値50)であったが、2017年に60(人口10万人当たり7.2病院(全国平均6.6)偏差値51)となり、13年間で3病院が減少した。

2004年の診療所数が644(人口10万人当たり73診療所(全国平均76)偏差値48)であったが、2017年に692(人口10万人当たり83診療所(全国平均80)偏差値52)と、48診療所が増加した。

2004年の総病床数が12,944床(人口1万人当たり146(全国平均142)偏差値51)であったが、2017年に11,318床(人口1万人当たり136(全国平均130)偏差値51)と、1,626床の減少、率にして13%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

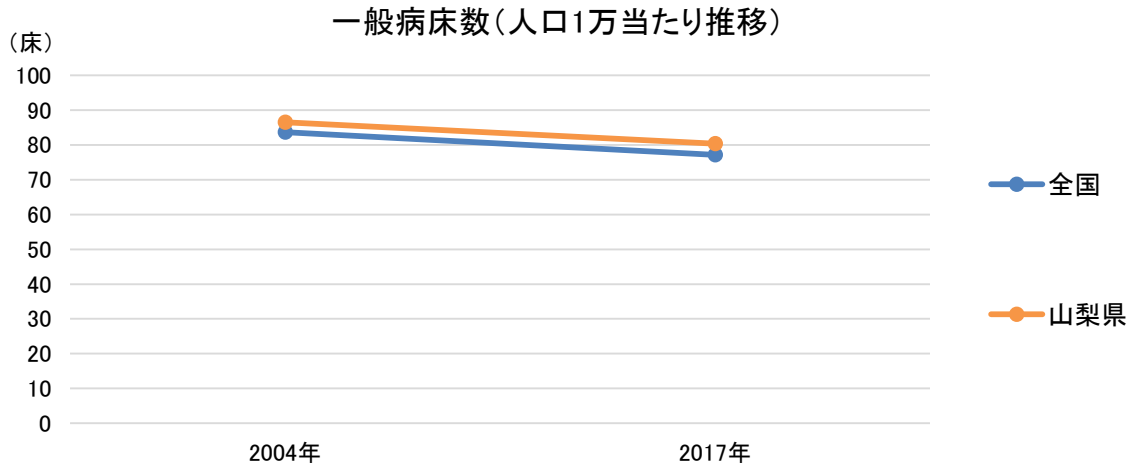
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が1,710人(人口10万人当たり193人(全国平均212人)偏差値48)であったが、2016年に1,924人(人口10万人当たり230人(全国平均240人)偏差値49)と、214人の増加、率にして13%の増加(全国平均13%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



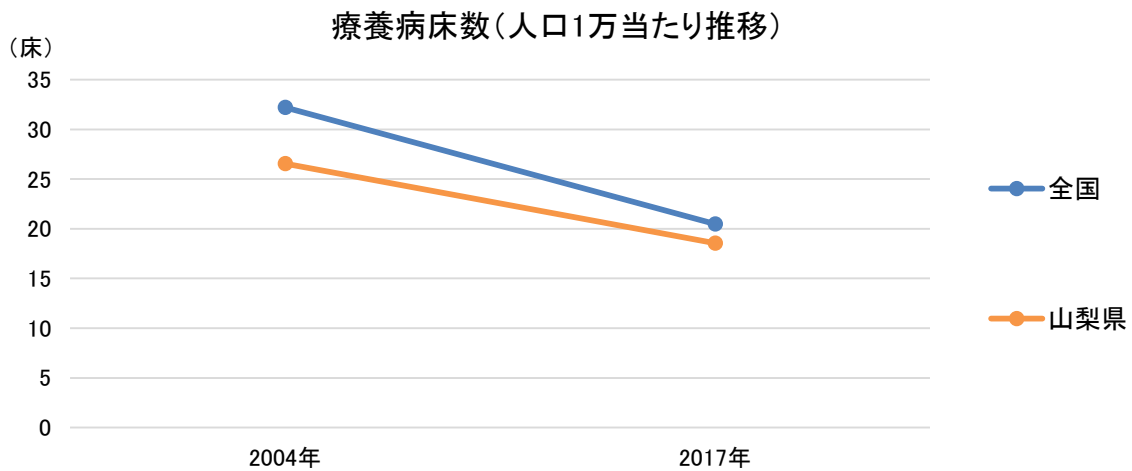
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が7,651床(人口1万人当たり86(全国平均84)偏差値51)であったが、2017年に6,708床(人口1万人当たり80(全国平均77)偏差値51)と、943床の減少、率にして12%の減少(全国平均8%の減少)が見られた。



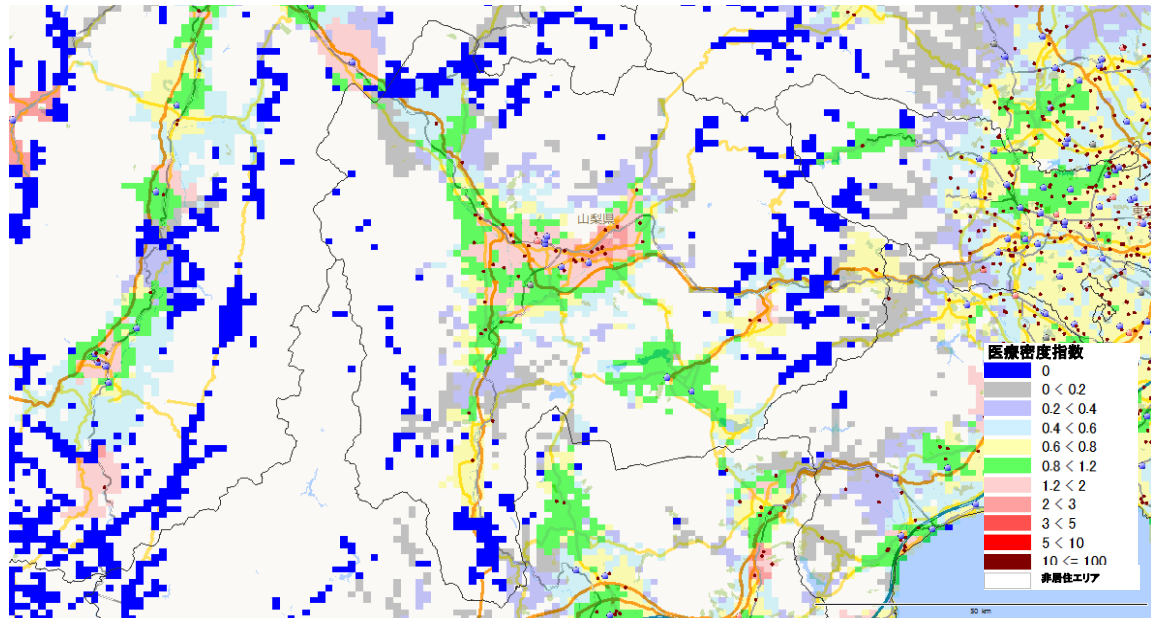
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が2,565床(75歳以上1,000人当たり27(全国平均32)偏差値47)であったが、2017年に2,240床(75歳以上1,000人当たり19(全国平均20)偏差値48)と、325床の減少、率にして13%の減少(全国平均11%の減少)が見られた。



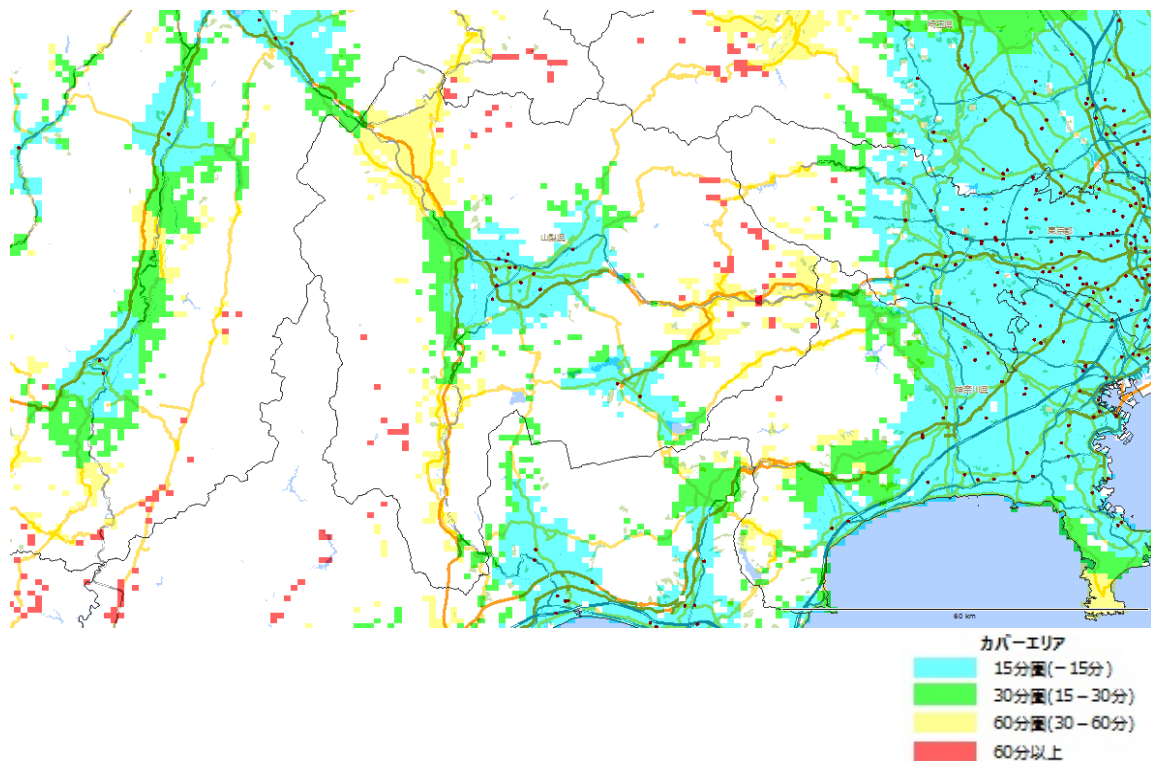
## (山梨県) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表19-1 急性期医療密度指数マップ



図表19-2 分娩医療機関への所用運転時間(カバーエリア)

※全国1km<sup>2</sup>メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km<sup>2</sup>メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400) )



資料編 ー 当県ならびに二次医療圏別資料

資\_図表 19-1 地理情報・人口動態

二次医療圏	人口 (単位: 千人)	県内 シェア	面積	県内 シェア	人口 密度	地域タイプ	高齢 化率	2025年 総人口 (単位: 千人)	2040年 総人口 (単位: 千人)	2015年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2025年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2040年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2015→ 25年 総人口 増減率	2025→ 40年 総人口 増減率	2015→ 25年 75歳以上 人口 増減率	2025→ 40年 75歳以上 人口 増減率
全国	127,095		372,950		340.8		27%	122,544	110,919	16,322	21,800	22,392	-4%	-9%	34%	3%
山梨県	835	41位	4,461	32位	187.2		28%	763	642	121	151	159	-9%	-16%	25%	5%
中北	465	56%	1,336	30%	348.0	地方都市型	27%	436	380	62	82	88	-6%	-13%	32%	7%
峡東	136	16%	756	17%	180.4	過疎地域型	30%	124	103	22	27	27	-9%	-17%	23%	0%
峡南	53	6%	1,060	24%	49.8	過疎地域型	37%	43	30	11	11	10	-19%	-30%	0%	-9%
富士・東部	181	22%	1,309	29%	138.3	過疎地域型	28%	160	129	26	31	34	-12%	-19%	19%	10%
出典	<人口(2015年)>平成27年国勢調査 人口等基本集計 平成27年10月 <人口(2025年、2040年)>日本の地域別将来推計人口 国立社会保障・人口問題研究所 平成30年3月 <面積>平成27年国勢調査 人口等基本集計 平成27年10月															

資\_図表 19-2 一人当たり医療密度指数、介護充足度指数

二次医療圏	一人当たり 急性期医療 密度指数	一人当たり 慢性期医療 密度指数	75歳以上介護充足度		
			2016年 ベッド数	2025年目標 ベッド数	2025年充足度 指数 (%)
全国	1.00	1.00	1,485,377	1,772,098	-19.3%
山梨県	0.99	1.04	8,468	12,091	-42.8%
中北	1.13	1.32	4,267	6,560	-53.7%
峡東	1.18	1.25	2,007	2,082	-3.8%
峡南	0.68	0.60	685	949	-38.5%
富士・東部	0.61	0.86	1,509	2,500	-65.7%
出典	<一人当たり急性期医療密度指数><一人当たり慢性期医療密度指数>その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0が全国平均。0.8を下回ると少ない、0.6を下回ると非常に少ない、1.2以上充実、1.5以上非常に充実。(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2016年度版)序章【参考資料】参照(日医総研WP no.375) ) <75歳以上介護充足度指数>高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。2025年の75歳以上推定人口から算出した高齢者住宅・施設の目標ベッド数が2016年ベッド数と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。				



資\_図表 19-3 国保の医療費・地域差指数、全体の介護給付費

二次医療圏	一人あたり医療費 (国保のみ) (単位:千円)			入院費 (単位:千円)			入院外+調剤 (単位:千円)			被保険者一人あたり 介護給付費 (単位:千円)	
	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数		偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数		偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数		偏差値 *全国は 標準偏差	
全国	347	(43)	1.000	133	(30)	1.000	188	(17)	1.000	252	(35)
山梨県	334	47	0.965	125	47	0.937	187	49	0.992	257	51
中北	326	45	0.946	119	45	0.895	184	48	0.985	251	50
峡東	343	49	0.992	127	48	0.956	192	52	1.022	274	56
峡南	379	58	1.028	152	56	1.064	205	60	1.025	314	68
富士・東部	335	47	0.968	131	49	0.981	182	47	0.971	234	45
出典	<一人あたり医療費>平成28年度医療費の地域差分析 厚生労働省 <一人あたり介護給付費>平成29年度介護保険事業状況報告(年報) 平成29年度累計(平成29年3月サービス分から平成30年2月サービス分まで) ※介護給付費の二次医療圏値の算定には、福岡県と沖縄県の一部市町村が二次医療圏をまたぐ広域連合を構成しているため、構成市町村の75歳以上人口による按分を用いた。また、複数の二次医療圏をもつ横浜市および川崎市は同じデータを記載。										

資\_図表 19-4 後期高齢者の医療費・地域差指数

二次医療圏	一人あたり後期高齢者 医療費 (単位:千円)			入院費 (単位:千円)			入院外+調剤 (単位:千円)		
	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数		偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数		偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数	
全国	919	(120)	1.000	458	(98)	1.000	427	(39)	1.000
山梨県	828	42	0.909	407	45	0.884	393	41	0.940
中北	838	43	0.916	408	45	0.883	401	43	0.955
峡東	863	45	0.939	456	50	0.974	379	38	0.909
峡南	824	42	0.873	417	46	0.854	384	39	0.907
富士・東部	778	38	0.857	362	40	0.789	388	40	0.933
出典	<一人あたり医療費>平成28年度医療費の地域差分析 厚生労働省								

資\_図表 19-5 病院数、診療所数

二次医療圏	病院数				診療所数			
	病院数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	診療所数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	8,412		6.6	(4.6)	101,471		80	(18.9)
山梨県	60	0.7%	7.2	51	692	0.7%	83	52
中北	32	53%	6.9	51	417	60%	90	55
峡東	14	23%	10.3	58	86	12%	63	41
峡南	6	10%	11.4	60	47	7%	89	55
富士・東部	8	13%	4.4	45	142	21%	78	49
出典	平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月			

資\_図表 19-6 診療所数(全体、無床、有床)

二次医療圏	診療所数 (再掲)	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	無床 診療所数				有床 診療所数			
					県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		
全国	101,471		80	(18.9)			74	(18.7)			5.7	(6.0)
山梨県	692	0.7%	83	52	654	0.7%	78	52	38	0.5%	4.6	48
中北	417	60%	90	55	392	60%	84	55	25	66%	5.4	50
峡東	86	12%	63	41	82	13%	60	42	4	11%	2.9	45
峡南	47	7%	89	55	47	7%	89	58	0	0%	0	40
富士・東部	142	21%	78	49	133	20%	73	50	9	24%	5.0	49
出典	平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月			

資\_図表 19-7 病院総病床数、診療所病床数

二次医療圏	病院 総病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	診療所 病床数				病院+ 診療所 病床数			
					県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		
全国	1,554,879		1,223	(481)			77	(94)			1,301	(537)
山梨県	10,843	0.7%	1,299	52	475	0.5%	57	48	11,318	0.7%	1,356	51
中北	6,157	57%	1,325	52	316	67%	68	49	6,473	57%	1,393	52
峡東	2,470	23%	1,811	62	71	15%	52	47	2,541	22%	1,863	60
峡南	549	5%	1,040	46	0	0%	0	42	549	5%	1,040	45
富士・東部	1,667	15%	921	44	88	19%	49	47	1,755	16%	969	44
出典	平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				病院総病床数と診療所病床数の合計			

資\_図表 19-8 病院病床数(一般病床、療養病床、精神病床)

二次医療圏	一般 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	療養 病床数				精神 病床数			
					県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		
全国	890,865		701	(223)			256	(203)			261	(210)
山梨県	6,289	0.7%	753	52	2,184	0.7%	262	50	2,314	0.7%	277	51
中北	3,590	57%	772	53	1,237	57%	266	51	1,296	56%	279	51
峡東	1,356	22%	994	63	628	29%	461	60	482	21%	353	54
峡南	395	6%	749	52	150	7%	284	51	0	0%	0	38
富士・東部	948	15%	524	42	169	8%	93	42	536	23%	296	52
出典	平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月			

資\_図表 19-9 回復期リハビリ病棟病床数と地域包括ケア病棟病床数

二次医療圏	回復期リハビリ病棟病床数				地域包括ケア病棟病床数			
	回復期 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	地域包括 ケア 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	80,806		64	(46)	73,895		58	(63)
山梨県	909	1.1%	109	60	588	0.8%	70	52
中北	291	32%	63	50	208	35%	45	48
峡東	618	68%	453	134	185	31%	136	62
峡南	0	0%	0	36	30	5%	57	50
富士・東部	0	0%	0	36	165	28%	91	55
出典	平成29年度病床機能報告 平成29年7月				平成30年5月地方厚生局			

資\_図表 19-10 公的病院病床数、民間病院病床数

二次医療圏	公的病院			民間病院			一般病床		療養病床	
	総病床数	一般 病床数	療養 病床数	総病床数	一般 病床数	療養 病床数	公的病院 病床数 の比率	偏差値 *全国は 標準偏差	公的病院 病床数 の比率	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	445,096	396,156	16,674	1,098,305	495,042	301,360	44.5%	(27%)	5.2%	(22%)
山梨県	4,210	3,658	290	6,469	2,619	1,801	58.3%	55	13.9%	54
中北	2,744	2,370	120	3,267	1,156	1,084	67.2%	59	10.0%	52
峡東	81	81	0	2,378	1,324	568	5.8%	35	0.0%	48
峡南	334	304	26	214	90	124	77.2%	62	17.3%	55
富士・東部	1,051	903	144	610	49	25	94.9%	69	85.2%	86
出典	地方厚生局指定一覧平成30年12月公表データをもとに株式会社ウェルネスが集計 公的病院の分類は、「新公立病院改革プラン」と「公的医療機関等2025プラン」の策定対象医療機関および開設者が国の医療機 関とし、それ以外は民間病院とした。									

資\_図表 19-11 全身麻酔件数、分娩件数（年間）

二次医療圏	全身麻酔件数				分娩件数			
	全身麻酔 件数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	分娩件数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	3,945,312		3,104	(2,557)	923,436		727	(264)
山梨県	11,448	0.3%	1,371	43	5,760	0.6%	690	49
中北	8,736	76%	1,880	45	4,272	74%	919	57
峡東	1,344	12%	986	42	204	4%	150	28
峡南	0	0%	0	38	0	0%	0	22
富士・東部	1,368	12%	756	41	1,284	22%	709	49
出典	平成29年度病床機能報告 ※平成29年6月の月間件数×12				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月 ※平成29年9月の月間件数×12			

資\_図表 19-12 医師数(総数、病院医師数、診療所医師数)

二次医療圏	総医師数				病院医師数				診療所医師数			
	総医師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	病院医師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	診療所医師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	304,759		240	(90)	202,302		159	(72)	102,457		81	(23)
山梨県	1,924	0.6%	230	49	1,279	0.6%	153	49	645	0.6%	77	49
中北	1,350	70%	290	56	936	73%	201	56	414	64%	89	54
峡東	258	13%	189	44	178	14%	131	46	80	12%	59	41
峡南	59	3%	112	36	39	3%	74	38	20	3%	38	32
富士・東部	257	13%	142	39	126	10%	70	38	131	20%	72	46
出典	病院医師数と診療所医師数の合計				平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月				平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月			

資\_図表 19-13 専門医数(総合内科、小児科、産婦人科)

二次医療圏	総合内科専門医数				小児科専門医数				産婦人科専門医数			
	総合内科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	小児科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	産婦人科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	22,522		17.7	(9.2)	13,551		10.7	(4.8)	11,242		8.8	(4.0)
山梨県	138	0.6%	16.5	49	102	0.8%	12.2	53	78	0.7%	9.3	51
中北	101	73%	21.7	54	74	73%	15.9	61	59	76%	12.7	60
峡東	23	17%	16.9	49	11	11%	8.1	45	5	6%	3.7	37
峡南	1	1%	1.9	33	4	4%	7.6	44	0	0%	0	28
富士・東部	13	9%	7.2	38	13	13%	7.2	43	14	18%	7.7	47
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月											

資\_図表 19-14 専門医数(皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科)

二次医療圏	皮膚科専門医数				眼科専門医数				耳鼻咽喉科専門医数			
	皮膚科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	眼科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	耳鼻咽喉科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	5,609		4.4	(2.2)	9,812		7.7	(3.3)	7,687		6.0	(2.6)
山梨県	39	0.7%	4.7	51	66	0.7%	7.9	51	57	0.7%	6.8	53
中北	28	72%	6.0	57	44	67%	9.5	55	46	81%	9.9	65
峡東	9	23%	6.6	60	10	15%	7.3	49	7	12%	5.1	47
峡南	1	3%	1.9	38	2	3%	3.8	38	0	0%	0	27
富士・東部	1	3%	0.6	32	10	15%	5.5	43	4	7%	2.2	35
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月											

資\_図表 19-15 専門医数(精神科、外科、整形外科)

二次医療圏	精神科				外科				整形外科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	9,177		7.2	(3.4)	21,168		16.7	(7.1)	16,463		13.0	(4.6)
山梨県	50	0.5%	6.0	46	145	0.7%	17.4	51	124	0.8%	14.9	54
中北	39	78%	8.4	53	97	67%	20.9	56	87	70%	18.7	62
峡東	6	12%	4.4	42	22	15%	16.1	49	18	15%	13.2	51
峡南	0	0%	0	29	7	5%	13.3	45	4	3%	7.6	38
富士・東部	5	10%	2.8	37	19	13%	10.5	41	15	12%	8.3	40
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月											

資\_図表 19-16 専門医数(泌尿器科、脳神経外科、放射線科)

二次医療圏	泌尿器科				脳神経外科				放射線科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	6,003		4.7	(2.1)	6,763		5.3	(2.4)	5,687		4.5	(3.0)
山梨県	44	0.7%	5.3	53	55	0.8%	6.6	55	30	0.5%	3.6	47
中北	31	70%	6.7	59	39	71%	8.4	63	24	80%	5.2	52
峡東	6	14%	4.4	48	9	16%	6.6	55	4	13%	2.9	45
峡南	1	2%	1.9	37	0	0%	0	27	0	0%	0	35
富士・東部	6	14%	3.3	43	7	13%	3.9	44	2	7%	1.1	39
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月											

資\_図表 19-17 専門医数(麻酔科、病理、救急科)

二次医療圏	麻酔科				病理				救急科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	7,107		5.6	(3.3)	1,603		1.3	(1.0)	3,795		3.0	(1.9)
山梨県	40	0.6%	4.8	48	9	0.6%	1.1	48	18	0.5%	2.2	46
中北	34	85%	7.3	55	8	89%	1.7	55	17	94%	3.7	53
峡東	2	5%	1.5	37	0	0%	0	37	0	0%	0	34
峡南	0	0%	0	33	1	11%	1.9	56	0	0%	0	34
富士・東部	4	10%	2.2	40	0	0%	0	37	1	6%	0.6	37
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月											

資\_図表 19-18 専門医数 (形成外科、リハビリテーション科)

二次医療圏	形成外科 専門医数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	リハビリテ- ション科 専門医数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	2,141		1.7	(1.3)	2,516		2.0	(1.4)
山梨県	10	0.5%	1.2	46	20	0.8%	2.4	53
中北	9	90%	1.9	52	10	50%	2.2	51
峡東	0	0%	0	37	10	50%	7.3	88
峡南	0	0%	0	37	0	0%	0	36
富士・東部	1	10%	0.6	41	0	0%	0	36
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月							

資\_図表 19-19 看護師数 (総数、病院看護師数、診療所看護師数)

二次医療圏	総看護師 数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	病院 看護師数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	診療所 看護師数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,145,134		901	(287)	919,205		723	(243)	225,929		178	(71)
山梨県	7,157	0.6%	857	48	5,926	0.6%	710	49	1,231	0.5%	147	46
中北	4,447	62%	957	52	3,597	61%	774	52	850	69%	183	51
峡東	1,407	20%	1,032	55	1,262	21%	925	58	146	12%	107	40
峡南	303	4%	574	39	275	5%	522	42	28	2%	52	32
富士・東部	999	14%	552	38	792	13%	437	38	207	17%	114	41
出典	病院看護師数と診療所看護師数の合計				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月			

資\_図表 19-20 総療法士数と薬剤師数

二次医療圏	総療法士 数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	薬剤師 数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	139,385		110	(57)	301,323		237	(98)
山梨県	1,224	0.9%	147	56	1,707	0.6%	204	47
中北	527	43%	113	51	1,126	66%	242	51
峡東	586	48%	430	106	257	15%	188	45
峡南	35	3%	67	42	59	3%	112	37
富士・東部	76	6%	42	38	265	16%	146	41
出典	平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月			

資\_図表 19-21 在宅医療施設数(在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院、訪問看護ステーション)

二次医療圏	在宅療養支援診療所				在宅療養支援病院				訪問看護ステーション			
	在宅療養支援診療所	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	在宅療養支援病院	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	訪問看護ステーション	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	14,224		0.9	(0.4)	1,386		0.1	(0.1)	10,994		0.7	(0.2)
山梨県	66	0.5%	0.5	43	9	0.6%	0.1	49	45	0.4%	0.4	36
中北	42	64%	0.7	46	4	44%	0.1	47	24	53%	0.4	37
峡東	13	20%	0.6	44	3	33%	0.1	58	9	20%	0.4	38
峡南	1	2%	0.1	32	2	22%	0.2	63	6	13%	0.5	44
富士・東部	10	15%	0.4	39	0	0%	0	38	6	13%	0.2	30
出典	届出受理医療機関名簿 地方厚生局 平成30年12月				届出受理医療機関名簿 地方厚生局 平成30年12月				介護サービス情報公表システム 厚生労働省 平成30年6月			

資\_図表 19-22 総高齢者施設・住宅定員数、介護保険施設定員(病床)数、高齢者住宅定員数

二次医療圏	総高齢者施設・住宅定員数				介護保険施設定員(病床)数				高齢者住宅定員数			
	総高齢者施設・住宅定員数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	介護保険施設定員(病床)数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	高齢者住宅定員数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	1,695,162		104	(17)	1,001,413		61	(12)	693,749		43	(16)
山梨県	9,938	0.6%	82	37	6,962	0.7%	58	47	2,976	0.4%	25	39
中北	5,310	53%	85	39	3,528	51%	57	46	1,782	60%	29	41
峡東	2,245	23%	104	50	1,390	20%	65	53	855	29%	40	48
峡南	733	7%	65	27	643	9%	57	47	90	3%	8	28
富士・東部	1,650	17%	64	26	1,401	20%	54	44	249	8%	10	29
出典	介護保険施設定員(病床)数と高齢者住宅定員数の合計				老人保健施設(老健)定員数、特別養護老人ホーム(特養)定員数、介護療養病床数の合計				有料老人ホーム、軽費ホーム、グループホーム、サ高住の合計			

資\_図表 19-23 老人保健施設(老健)定員数、特別養護老人ホーム(特養)定員数、介護療養病床数

二次医療圏	老人保健施設(老健)定員数				特別養護老人ホーム(特養)定員数				介護療養病床数			
	老人保健施設(老健)定員数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	特別養護老人ホーム(特養)定員数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	介護療養病床数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	366,589		22	(5.9)	575,180		35	(9.9)	59,644		3.7	(4.0)
山梨県	2,649	0.7%	22	49	4,069	0.7%	34	48	244	0.4%	2.0	46
中北	1,415	53%	23	51	1,958	48%	32	46	155	64%	2.5	47
峡東	510	19%	24	52	862	21%	40	55	18	7%	0.8	43
峡南	154	6%	14	35	489	12%	43	58	0	0%	0	41
富士・東部	570	22%	22	49	760	19%	29	44	71	29%	2.8	48
出典	平成30年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウエルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資\_図表 19-24 有料老人ホーム定員数、軽費ホーム定員数、グループホーム定員数

二次医療圏	有料老人ホーム	有料老人ホーム			軽費ホーム	軽費ホーム			グループホーム	グループホーム		
		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	237,141		14.5	(10.8)	23,297		1.4	(2.1)	201,436		12.3	(5.8)
山梨県	605	0.3%	5.0	41	0	0.0%	0	43	858	0.4%	7.1	41
中北	163	27%	2.6	39	0		0	43	576	67%	9.3	45
峡東	442	73%	20.5	56	0		0	43	132	15%	6.1	39
峡南	0	0%	0	37	0		0	43	42	5%	3.7	35
富士・東部	0	0%	0	37	0		0	43	108	13%	4.2	36
出典	平成30年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資\_図表 19-25 サービス付き高齢者専用賃貸住宅（サ高住）定員数

二次医療圏	サ高住 (全施設)	サ高住(全施設)			サ高住 (特定 施設)	サ高住(特定 施設)			サ高住 (非特定 施設)	サ高住(非特定 施設)			
		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	
全国	231,875		14.2	(7.0)	22,090		1.4	(1.8)	209,785		12.9	(6.8)	
山梨県	1,513	0.7%	12.5	48	43	0.2%	0.4	44	1,470	0.7%	12.2	49	
中北	1,043	69%	16.8	54	0	0%	0	43	1,043	71%	16.8	56	
峡東	281	19%	13.0	48	43	100%	2.0	54	238	16%	11.0	47	
峡南	48	3%	4.3	36	0	0%	0	43	48	3%	4.3	37	
富士・東部	141	9%	5.5	37	0	0%	0	43	141	10%	5.5	39	
出典	サ高住(特定施設)とサ高住(非特定施設)の合計			平成30年6月 国土交通省・厚生労働省 サービス付き高齢者向け住宅 情報提供システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの					平成30年6月 国土交通省・厚生労働省 サービス付き高齢者向け住宅 情報提供システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの				

資\_図表 19-26 介護サービス従事看護師数（介護施設、訪問看護）（常勤換算）

二次医療圏	介護サービス従事 看護師数	介護施設			看護師数 (施設)	訪問看護			看護師数 (訪問)			
		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差				
全国	171,768		10.5	(2.3)	120,155		7.4	(2.0)	51,613		3.2	(1.1)
山梨県	979	0.6%	8.1	39	763	0.6%	6.3	45	216	0.4%	1.8	37
中北	521	53%	8.4	41	389	51%	6.3	44	132	61%	2.1	40
峡東	199	20%	9.2	44	160	21%	7.4	50	39	18%	1.8	37
峡南	77	8%	6.9	34	60	8%	5.3	40	18	8%	1.6	35
富士・東部	183	19%	7.1	35	155	20%	6.0	43	28	13%	1.1	31
出典	平成30年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											



資\_図表 19-27 介護サービス従事介護職員数(介護施設等、在宅介護)(常勤換算)

二次医療圏	介護サービス従事介護職員数	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	介護職員 数 (介護施設 等)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	介護職員 数 (在宅)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,507,968		92	(12.4)	1,286,309		79	(11.2)	221,659		13.6	(5.6)
山梨県	10,262	0.7%	85	44	9,137	0.7%	76	47	1,126	0.5%	9.3	42
中北	5,578	54%	90	48	4,873	53%	78	50	706	63%	11.4	46
峡東	2,057	20%	96	53	1,891	21%	88	58	166	15%	7.7	40
峡南	853	8%	76	37	772	8%	69	41	81	7%	7.2	39
富士・東部	1,774	17%	69	31	1,601	18%	62	35	173	15%	6.7	38
出典	平成30年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資\_図表 19-28 在宅医療・介護サービス利用者数(月間)

二次医療圏	在宅医療 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	訪問看護 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	訪問介護 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,228,040		75	(35)	511,065		31	(13)	1,218,955		75	(26)
山梨県	3,727	0.3%	31	37	2,034	0.4%	17	39	6,794	0.6%	56	43
中北	2,088	56%	34	38	1,186	58%	19	41	4,070	60%	66	47
峡東	885	24%	41	40	436	21%	20	42	1,139	17%	53	42
峡南	178	5%	16	33	125	6%	11	35	492	7%	44	38
富士・東部	576	15%	22	35	287	14%	11	35	1,093	16%	42	38
出典	平成30年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資\_図表 19-29 総人口の推移と医療需要の増減(医療費ベース)

二次医療圏	地域タイプ	総人口(2005→2015→2025)					医療需要推移(医療費ベース) (2005→2015→2025)		
		2005年	2015年	2005→ 15年 増減率	2025年 (推計)	2005→ 25年 増減率	2005→ 15年 増減率	2015→ 25年 増減率	2005→ 25年 増減率
全国		127,767,994	127,094,745	-1%	122,544,102	-4%	13%	5%	18%
山梨県		884,515	834,930	-6%	763,274	-14%	6%	2%	8%
中北	地方都市型	476,572	464,759	-2%	436,275	-8%	10%	4%	14%
峡東	過疎地域型	146,319	136,371	-7%	124,139	-15%	4%	1%	6%
峡南	過疎地域型	63,466	52,771	-17%	42,699	-33%	-9%	-10%	-18%
富士・東部	過疎地域型	198,158	181,029	-9%	160,161	-19%	3%	-1%	3%
出典	<人口(2005年)>平成17年国勢調査 都道府県・市区町村別統計表(男女別人口,年齢(3区分)・割合,就業者数,昼間人口など) <人口(2015年)>平成27年国勢調査 人口等基本集計 平成27年10月 <人口(2025年)>日本の地域別将来推計人口 国立社会保障・人口問題研究所 平成30年3月 ※医療需要は(0~64歳人口)+(65~74歳人口)×3.0+(75歳以上人口)×4.9で算出。								

資\_図表 19-30 病院数の推移

二次医療圏	2004年			2017年			2004→2017増減	
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	9,077	7.1	(3.9)	8,412	6.6	(4.6)	-665	-7%
山梨県	63	7.1	50	60	7.2	51	-3	-5%
中北	35	7.3	51	32	6.9	51	-3	-9%
峡東	14	9.6	56	14	10.3	58	0	0%
峡南	6	9.5	56	6	11.4	60	0	0%
富士・東部	8	4.0	42	8	4.4	45	0	0%
出典	<病院数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <病院数2017年>平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月							

資\_図表 19-31 診療所数の推移

二次医療圏	2004年			2017年			2004→2017増減	
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	97,051	76	(20)	101,471	80	(19)	4,420	5%
山梨県	644	73	48	692	83	52	48	7%
中北	394	83	53	417	90	55	23	6%
峡東	72	49	37	86	63	41	14	19%
峡南	49	77	51	47	89	55	-2	-4%
富士・東部	129	65	45	142	78	49	13	10%
出典	<診療所数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <診療所数2017年>平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月							

資\_図表 19-32 医師数の推移

二次医療圏	2004年			2016年			2004→2016増減	
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	270,371	212	(84)	304,759	240	(90)	34,388	13%
山梨県	1,710	193	48	1,924	230	49	214	13%
中北	1,149	241	54	1,350	290	56	201	17%
峡東	236	161	44	258	189	44	22	9%
峡南	77	121	39	59	112	36	-18	-23%
富士・東部	248	125	40	257	142	39	9	4%
出典	<総医師数2004年>平成16年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成16年12月 <総医師数2016年>平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月							

資\_図表 19-33 総病床数(精神科を含む)の推移

二次医療圏	2004年			2017年			2004→2017増減	
	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	1,812,554	142	(56)	1,653,234	130	(54)	-159,320	-9%
山梨県	12,944	146	51	11,318	136	51	-1,626	-13%
中北	7,601	159	53	6,473	139	52	-1,128	-15%
峡東	2,781	190	59	2,541	186	60	-240	-9%
峡南	590	93	41	549	104	45	-41	-7%
富士・東部	1,972	100	42	1,755	97	44	-217	-11%
出典	<総病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <総病床数2017年>平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月							

資\_図表 19-34 一般病床数(病院+診療所)の推移

二次医療圏	2004年			2017年			2004→2017増減	
	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	1,068,821	84	(28)	980,151	77	(26)	-88,670	-8%
山梨県	7,651	86	51	6,708	80	51	-943	-12%
中北	4,582	96	54	3,868	83	52	-714	-16%
峡東	1,403	96	54	1,409	103	60	6	0%
峡南	436	69	45	395	75	49	-41	-9%
富士・東部	1,230	62	42	1,036	57	42	-194	-16%
出典	<一般病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <一般病床数2017年>平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月							

資\_図表 19-35 療養病床数(病院+診療所)の推移

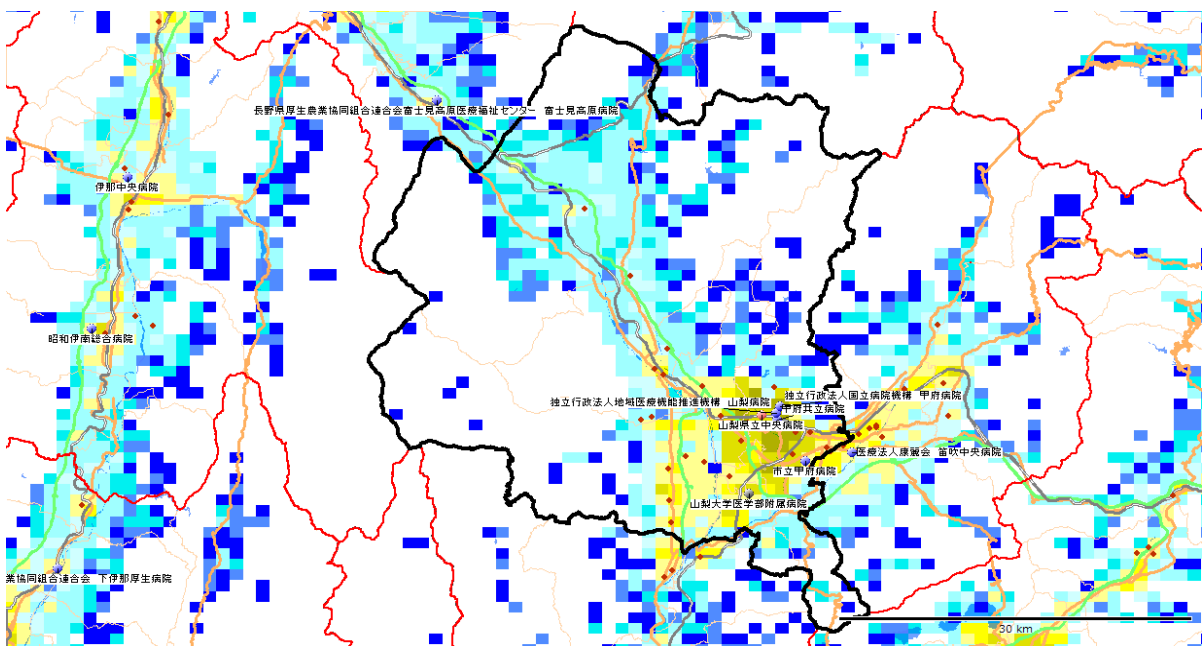
二次医療圏	2004年			2017年			2004→2017増減	
	数	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	373,823	32	(18)	334,297	20	(11)	-39,526	-11%
山梨県	2,565	27	47	2,240	19	48	-325	-13%
中北	1,404	30	48	1,275	21	50	-129	-9%
峡東	815	46	58	646	30	58	-169	-21%
峡南	150	13	39	150	13	44	0	0%
富士・東部	196	10	37	169	7	38	-27	-14%
出典	<一般病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <一般病床数2017年>平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月							

# 19-1. ちゅうほく 中北医療圏

構成市区町村 [甲府市](#) [斐崎市](#) [南アルプス市](#) [北杜市](#)  
[甲斐市](#) [中央市](#) [昭和町](#)

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能  
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

## 人口分布 (1km<sup>2</sup>区画単位)



1km<sup>2</sup>区画 (1km<sup>2</sup>メッシュ) で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く (10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル (1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない (1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。  
 出所：国勢調査 (平成22年、総務省) 地図情報GIS Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ

区画内人口 (1平方キロ)



DPG病院



## (中北医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

## 【地域の概要】

\*人口、面積など： 中北(甲府市)は、総人口約465千人(2015年)、面積1,336km<sup>2</sup>、人口密度は348人/km<sup>2</sup>の地方都市型二次医療圏である。

\*人口の将来予測： 中北の総人口は2025年に436千人へと減少し(2015年比-6%)、2040年に380千人へと減少する(2025年比-13%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の62千人が、2025年にかけて82千人へと増加し(2015年比+32%)、2040年には88千人へと増加する(2025年比+7%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費： 中北の一人当たり医療費(国保)は326千円(偏差値45)、介護給付費は251千円(偏差値50)であり、医療費はやや低い、介護給付費は全国平均レベルである。

## 【医療の現状】

\*入院医療の充実度： 中北の一人当たり急性期医療密度指数は1.13、一人当たり慢性期医療密度指数は1.32で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療は充実している。

\*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が56(病院医師数56、診療所医師数54)と、総医師数、病院医師数ともに多い。総看護師数の偏差値は52と全国平均レベルである。

\*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は53で、一般病床はやや多い。全身麻酔数の偏差値は45とやや少ない。中北には、年間全身麻酔件数が2000例以上の山梨県立中央病院(Ⅱ群・救命)、山梨大学医学部附属病院(Ⅰ群)、1000例以上の市立甲府病院(Ⅲ群)、500例以上のNH0甲府病院(Ⅲ群)がある。

\*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は51と療養病床数は全国平均レベルである。

\*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値51と全国平均レベルであり、回復期病床数は偏差値50と全国平均レベルである。

\*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は51で精神病床数は全国平均レベルである。

\*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は55で診療所数はやや多い。

## 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状： 中北の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、5,310人(75歳以上1,000人当たりの偏差値39)と全国平均レベルを下回る。そのうち、介護保険施設の定員が3,528床(偏差値46)、高齢者住宅等が1,782床(偏差値41)である。介護保険施設は全国平均レベルをやや下回り、高齢者住宅等は全国平均レベルを下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、4,873人(75歳以上1,000人当たりの偏差値50)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルである。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設51、特別養護老人ホーム46、介護療養型医療施設47、有料老人ホーム39、軽費ホームなし(偏差値43)、グループホーム45、サ高住54である。

\*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値46とやや少なく、在宅療養支援病院は偏差値47とやや少ない。また、訪問看護ステーションは偏差値37と少ない。介護職員(在宅)の合計は、706人(75歳以上1,000人当たりの偏差値46)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルをやや下回る。

\*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-54%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

(中北医療圏) 2. 推移

【人口と医療需要】

中北医療圏の総人口は、2005年476,572人が、2015年に464,759人と2%減少し、2025年の人口が436,275人と予測され、2005年→2025年の間に8%程度の減少が予測されている。

医療の需要(医療費ベース)は、2005年から2015年に10%増加し、2015年から2025年にかけて4%程度の増加が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

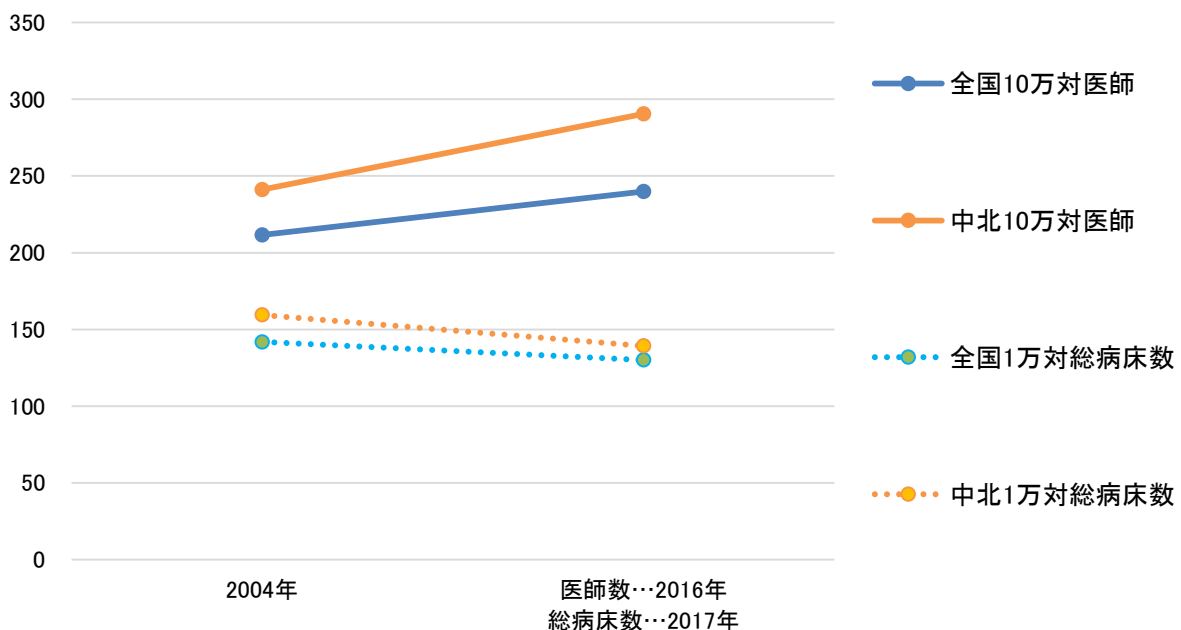
2004年の病院数が35(人口10万人当たり7.3病院(全国平均7.1)偏差値51)であったが、2017年に32(人口10万人当たり6.9病院(全国平均6.6)偏差値51)となり、13年間で3病院が減少した。

2004年の診療所数が394(人口10万人当たり83診療所(全国平均76)偏差値53)であったが、2017年に417(人口10万人当たり90診療所(全国平均80)偏差値55)と、23診療所が増加した。

2004年の総病床数が7,601床(人口1万人当たり159(全国平均142)偏差値53)であったが、2017年に6,473床(人口1万人当たり139(全国平均130)偏差値52)と、1,128床の減少、率にして15%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

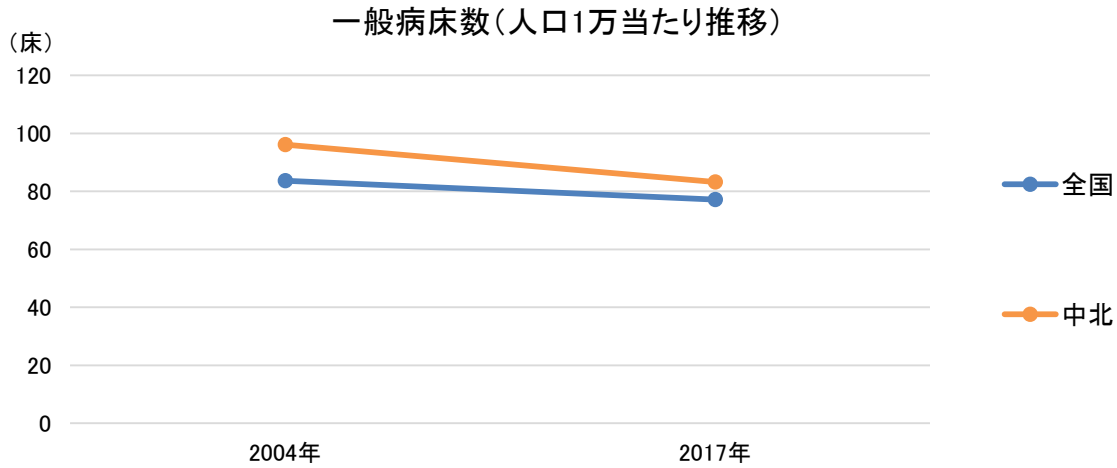
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が1,149人(人口10万人当たり241人(全国平均212人)偏差値54)であったが、2016年に1,350人(人口10万人当たり290人(全国平均240人)偏差値56)と、201人の増加、率にして17%の増加(全国平均13%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



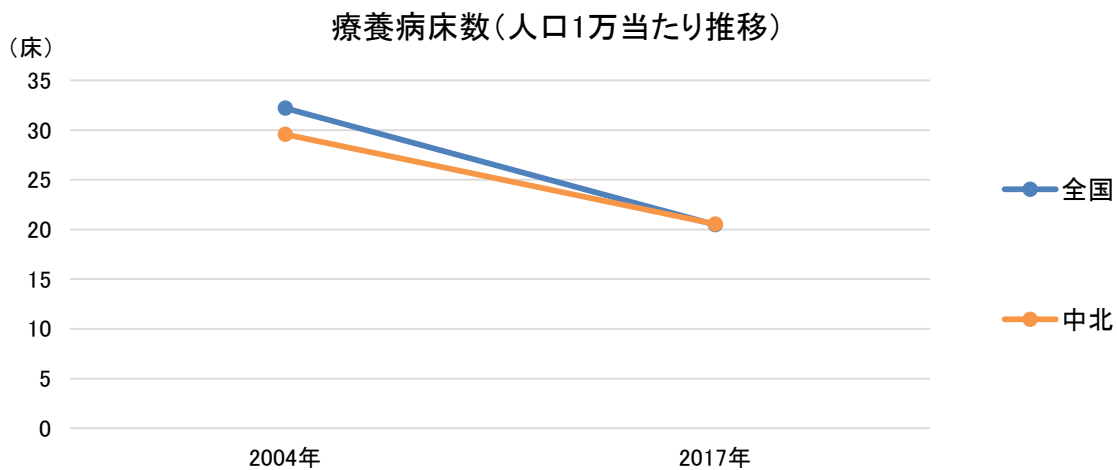
## 【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が4,582床(人口1万人当たり96(全国平均84)偏差値54)であったが、2017年に3,868床(人口1万人当たり83(全国平均77)偏差値52)と、714床の減少、率にして16%の減少(全国平均8%の減少)が見られた。



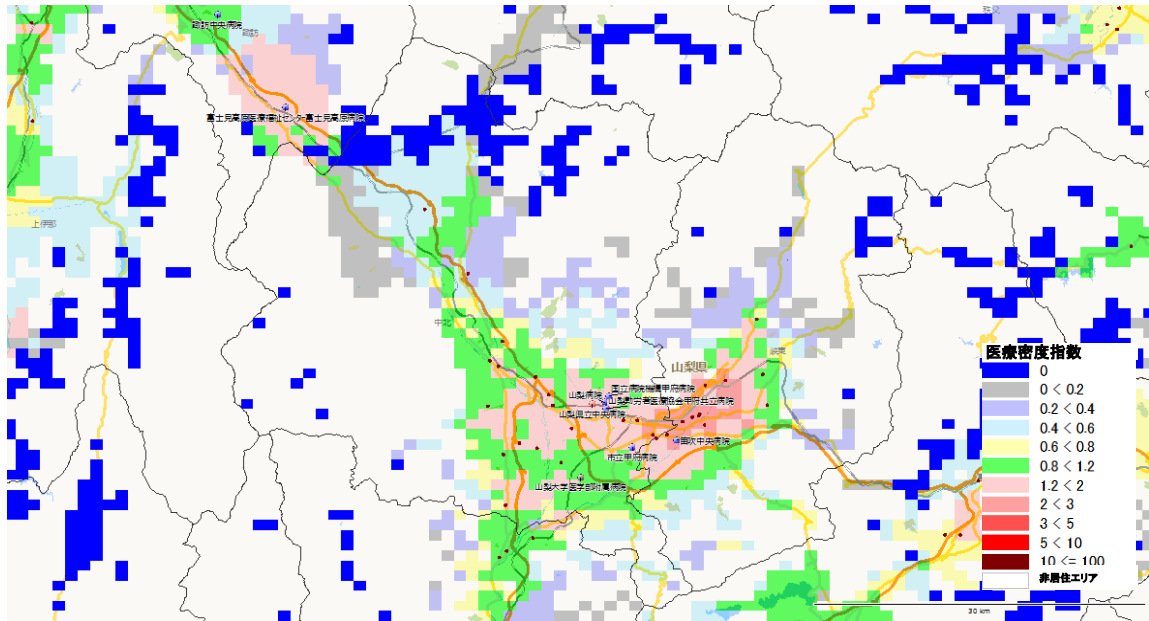
## 【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が1,404床(75歳以上1,000人当たり30(全国平均32)偏差値48)であったが、2017年に1,275床(75歳以上1,000人当たり21(全国平均20)偏差値50)と、129床の減少、率にして9%の減少(全国平均11%の減少)が見られた。



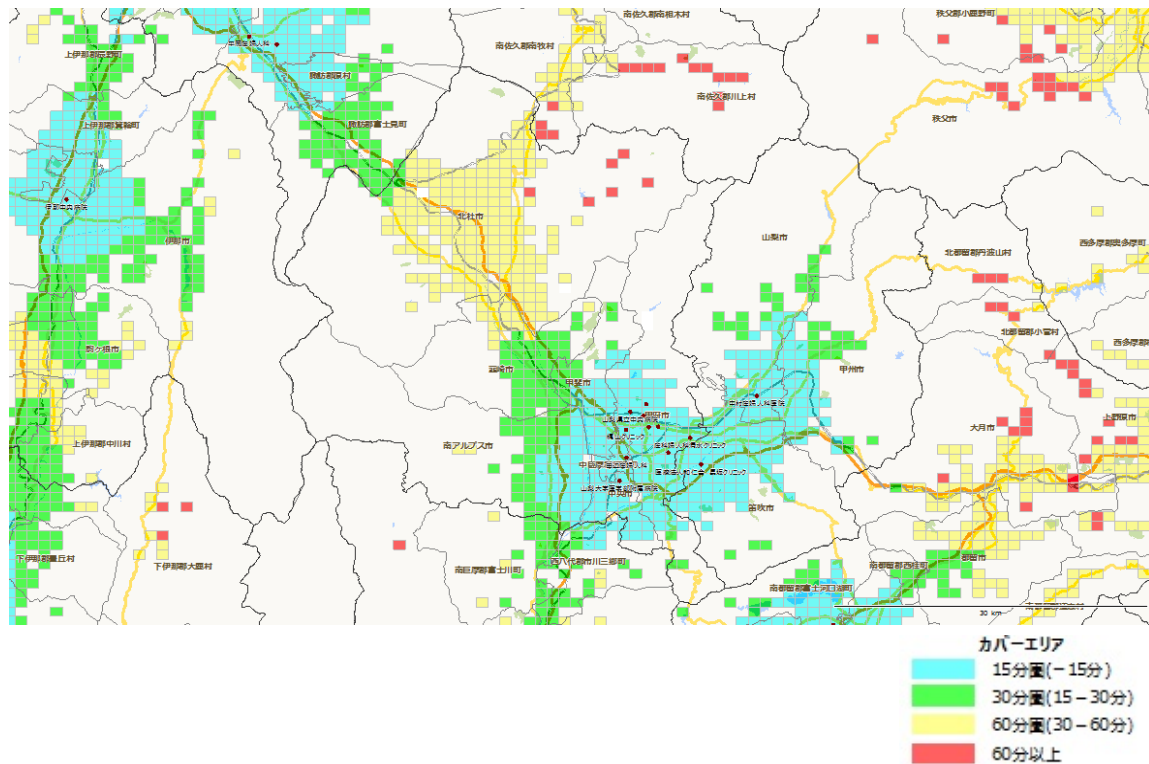
(中北医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表19-1-1 急性期医療密度指数マップ



図表19-1-2 分娩医療機関への所用運転時間 (カバーエリア)

※全国1km<sup>2</sup>メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km<sup>2</sup>メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400) )



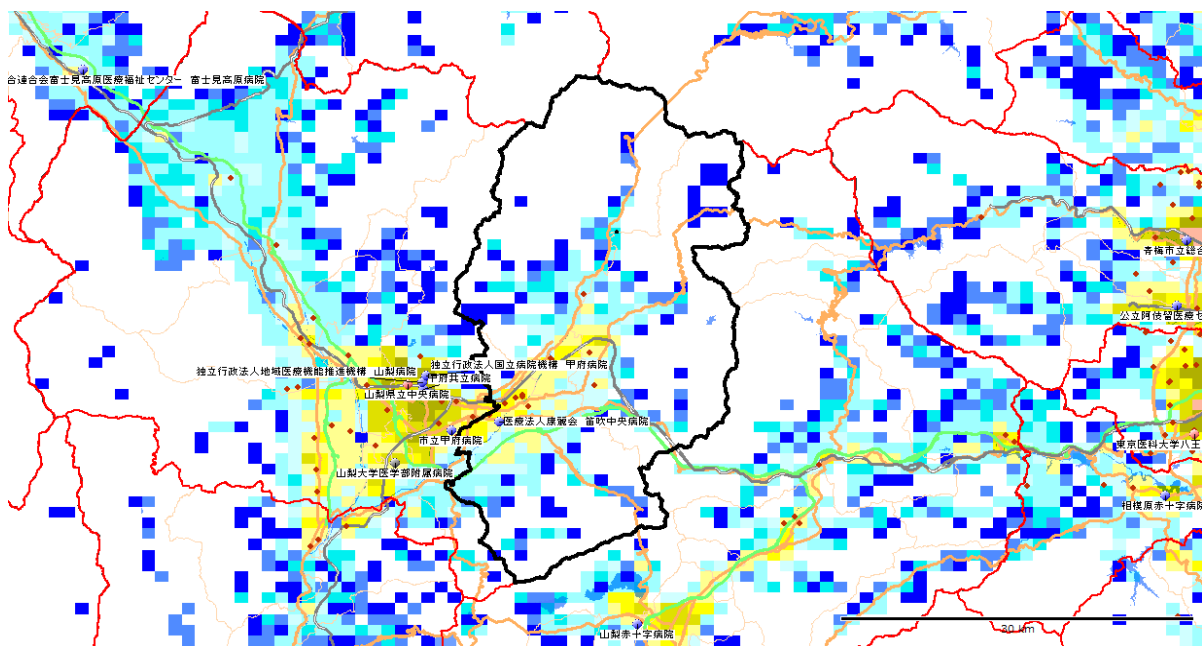


# 19-2. きょうとう 峡東医療圏

構成市区町村 [山梨市](#) [笛吹市](#) [甲州市](#)

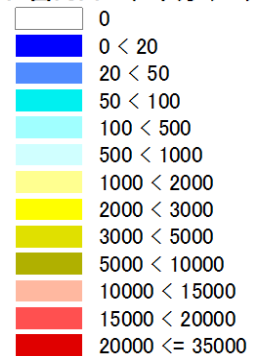
※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能  
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

## 人口分布 (1km<sup>2</sup>区画単位)



1km<sup>2</sup>区画 (1km<sup>2</sup>メッシュ) で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く (10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル (1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない (1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。  
 出所：国勢調査 (平成22年、総務省) 地図情報GIS Market Analyzer ver.3.7 地図 PAREAシリーズ

### 区画内人口 (1平方キロ)



### DPC病院



## (峡東医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

## 【地域の概要】

\*人口、面積など： 峡東(山梨市)は、総人口約136千人(2015年)、面積756km<sup>2</sup>、人口密度は180人/km<sup>2</sup>の過疎地域型二次医療圏である。

\*人口の将来予測： 峡東の総人口は2025年に124千人へと減少し(2015年比-9%)、2040年に103千人へと減少する(2025年比-17%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の22千人が、2025年にかけて27千人へと増加し(2015年比+23%)、2040年には27千人とほぼ変わらない(2025年比±0%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費： 峡東の一人当たり医療費(国保)は343千円(偏差値49)、介護給付費は274千円(偏差値56)であり、医療費は全国平均レベルであるが、介護給付費は高い。

## 【医療の現状】

\*入院医療の充実度： 峡東の一人当たり急性期医療密度指数は1.18、一人当たり慢性期医療密度指数は1.25で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療は充実している。

\*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が44(病院医師数46、診療所医師数41)と、総医師数と診療所医師数は少ない。総看護師数の偏差値は55とやや多い。

\*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は63で、一般病床は多い。全身麻酔数の偏差値は42と少ない。峡東には、年間全身麻酔件数が500例以上の山梨厚生病院(Ⅲ群)がある。

\*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は60と療養病床数は多い。

\*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値106と非常に多く、回復期病床数は偏差値134と非常に多い。

\*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は54で精神病床数はやや多い。

\*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は41で診療所数は少ない。

## 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状： 峡東の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、2,245人(75歳以上1,000人当たりの偏差値50)と全国平均レベルである。そのうち、介護保険施設の定員が1,390床(偏差値53)、高齢者住宅等が855床(偏差値48)である。介護保険施設は全国平均レベルをやや上回り、高齢者住宅等は全国平均レベルである。また、介護職員(介護施設等)の合計は、1,891人(75歳以上1,000人当たりの偏差値58)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設52、特別養護老人ホーム55、介護療養型医療施設43、有料老人ホーム56、軽費ホームなし(偏差値43)、グループホーム39、サ高住48である。

\*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値44と少なく、在宅療養支援病院は偏差値58と多い。また、訪問看護ステーションは偏差値38と少ない。介護職員(在宅)の合計は、166人(75歳以上1,000人当たりの偏差値40)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

\*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-4%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数でほぼ対応可能である。

## (峡東医療圏) 2. 推移

### 【人口と医療需要】

峡東医療圏の総人口は、2005年146,319人が、2015年に136,371人と7%減少し、2025年の人口が124,139人と予測され、2005年→2025年の間に15%程度の減少が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年に4%増加し、2015年から2025年にかけて1%程度の増加が予測される。

### 【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

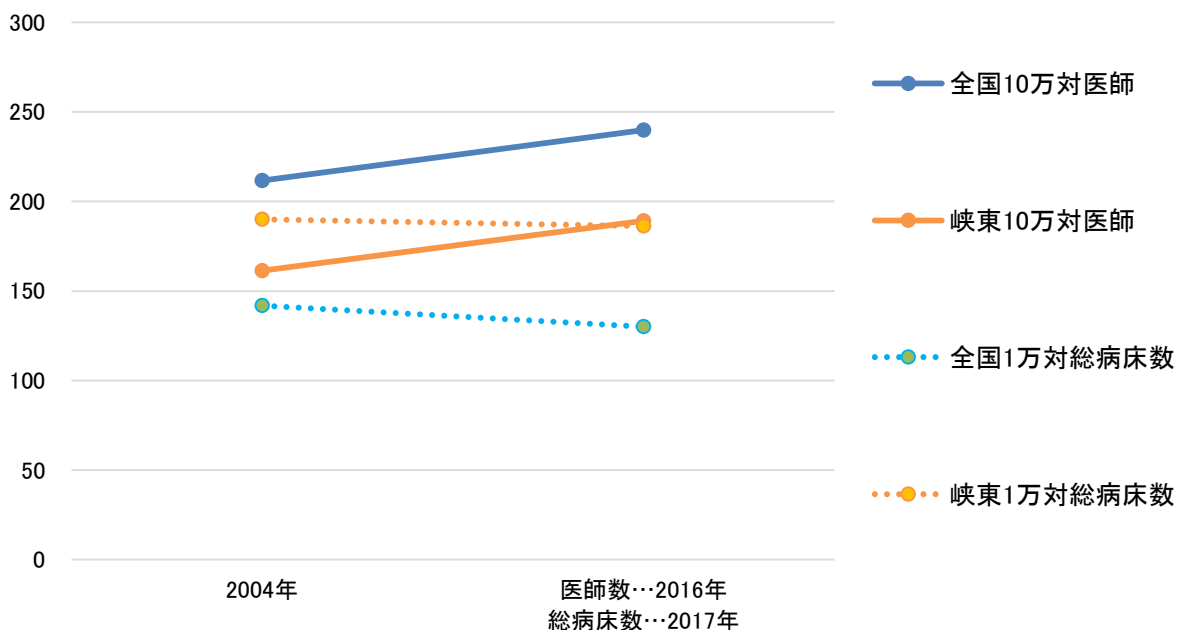
2004年の病院数が14(人口10万人当たり9.6病院(全国平均7.1)偏差値56)であったが、2017年に14(人口10万人当たり10.3病院(全国平均6.6)偏差値58)となり、13年間で増減がなかった。

2004年の診療所数が72(人口10万人当たり49診療所(全国平均76)偏差値37)であったが、2017年に86(人口10万人当たり63診療所(全国平均80)偏差値41)と、14診療所が増加した。

2004年の総病床数が2,781床(人口1万人当たり190(全国平均142)偏差値59)であったが、2017年に2,541床(人口1万人当たり186(全国平均130)偏差値60)と、240床の減少、率にして9%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

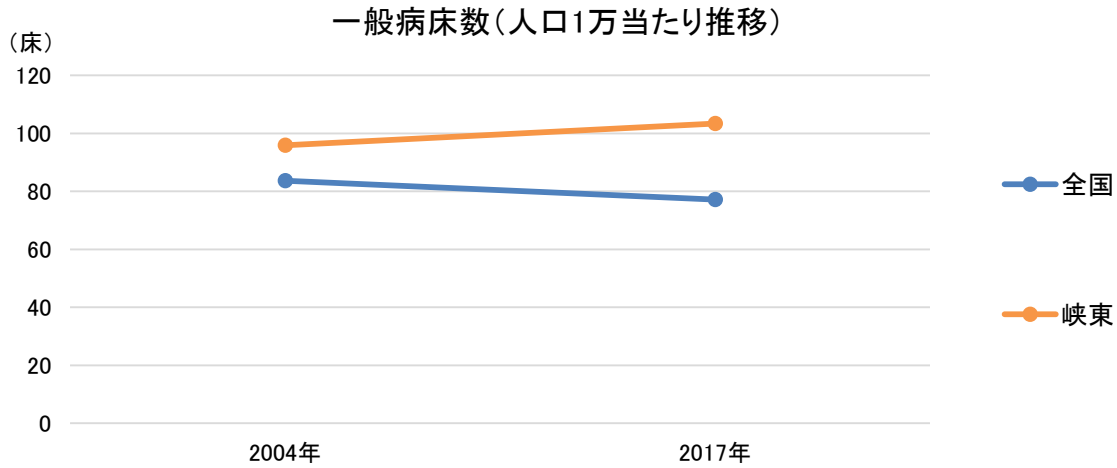
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が236人(人口10万人当たり161人(全国平均212人)偏差値44)であったが、2016年に258人(人口10万人当たり189人(全国平均240人)偏差値44)と、22人の増加、率にして9%の増加(全国平均13%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



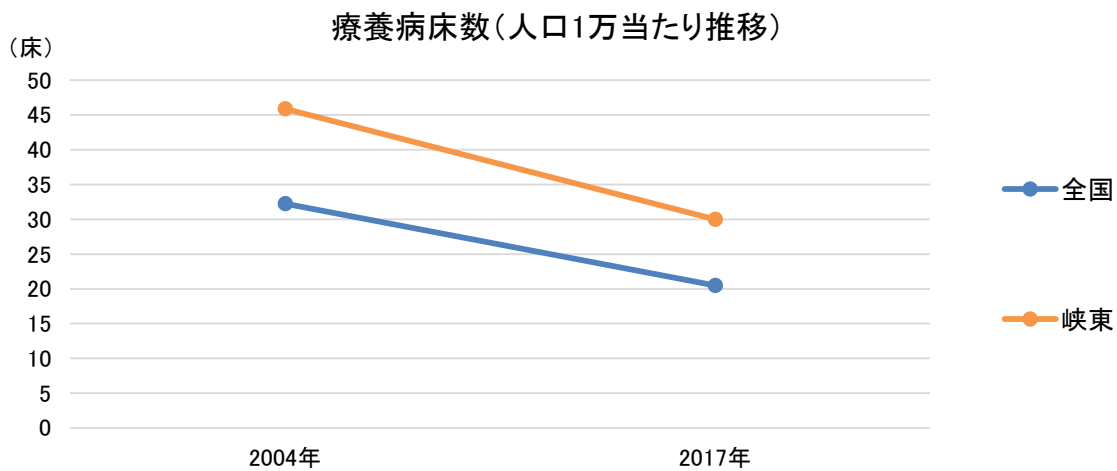
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が1,403床(人口1万人当たり96(全国平均84)偏差値54)であったが、2017年に1,409床(人口1万人当たり103(全国平均77)偏差値60)と、6床の増加、率にして1%未満の増加(全国平均8%の減少)が見られた。



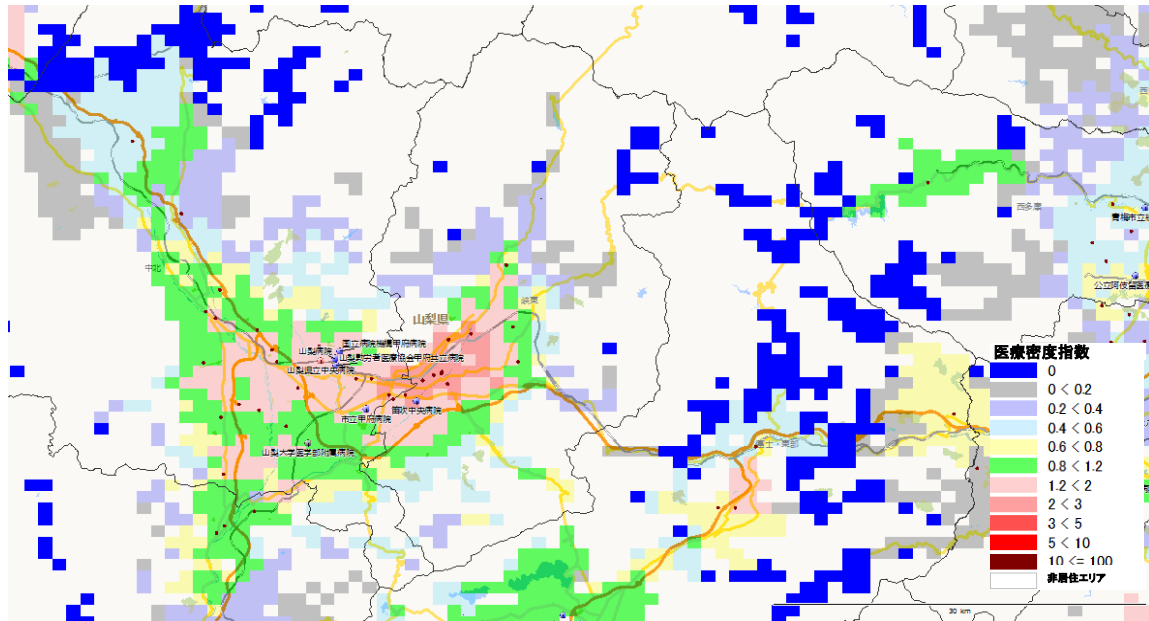
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が815床(75歳以上1,000人当たり46(全国平均32)偏差値58)であったが、2017年に646床(75歳以上1,000人当たり30(全国平均20)偏差値58)と、169床の減少、率にして21%の減少(全国平均11%の減少)が見られた。



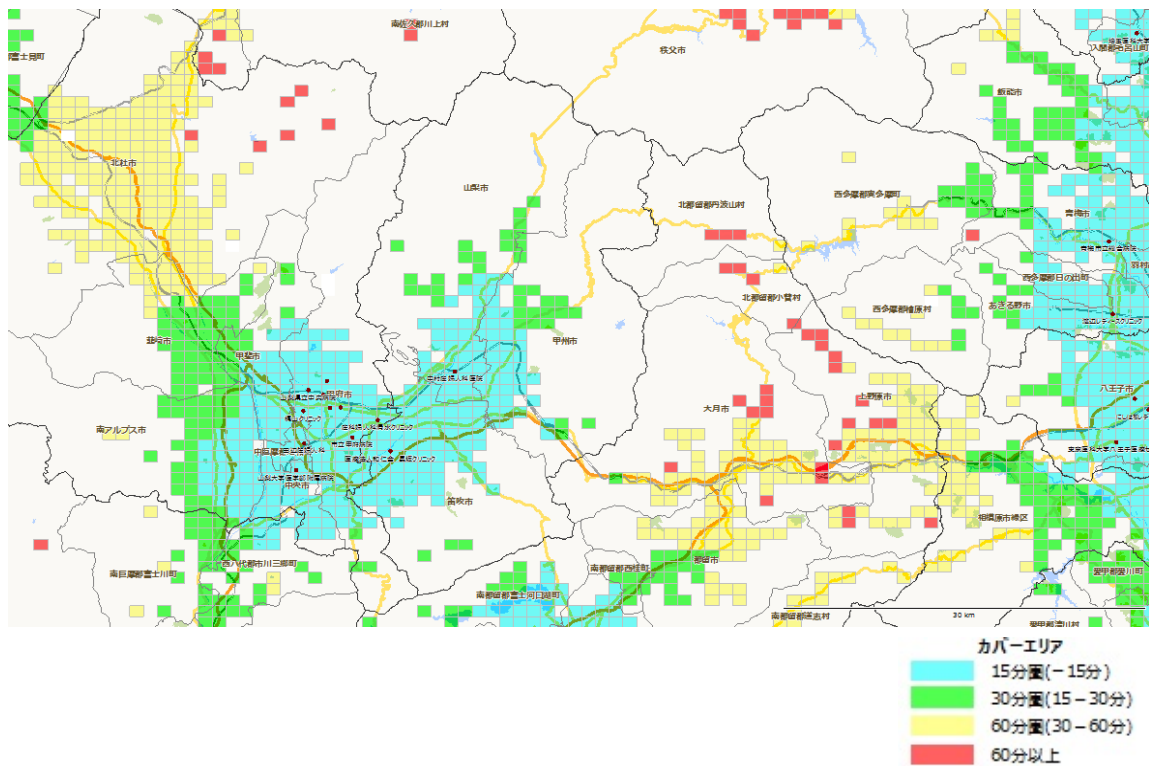
(峡東医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表19-2-1 急性期医療密度指数マップ



図表19-2-2 分娩医療機関への所用運転時間(カバーエリア)

※全国1km<sup>2</sup>メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km<sup>2</sup>メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400) )

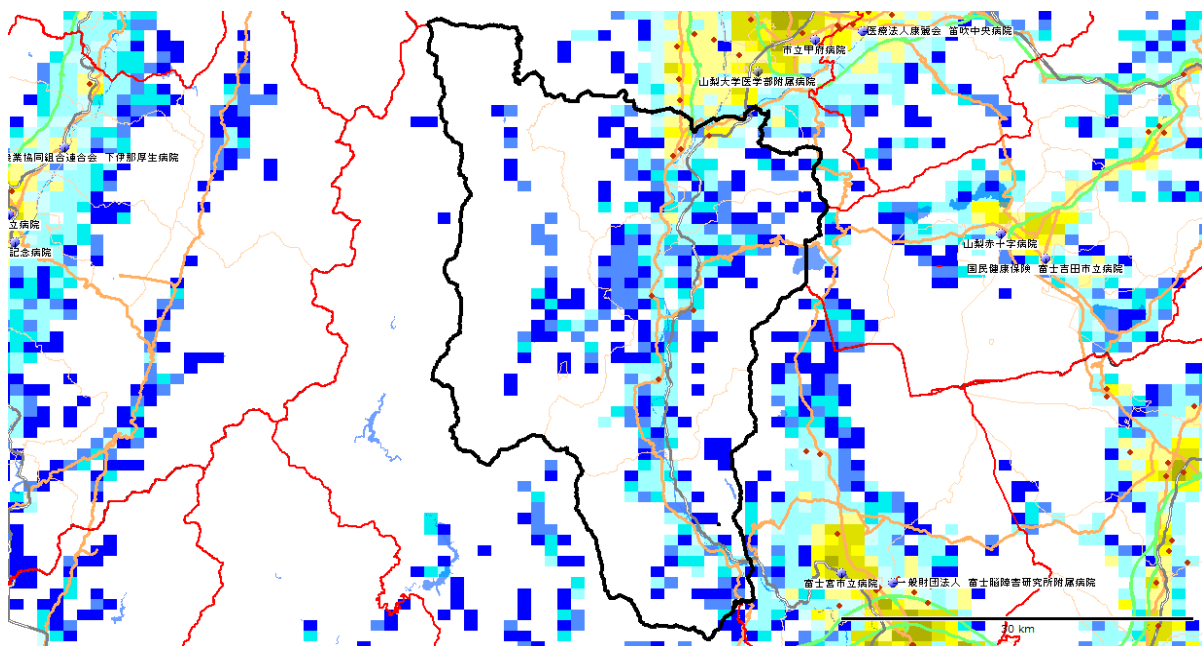


# 19-3. きょうなん 峡南医療圏

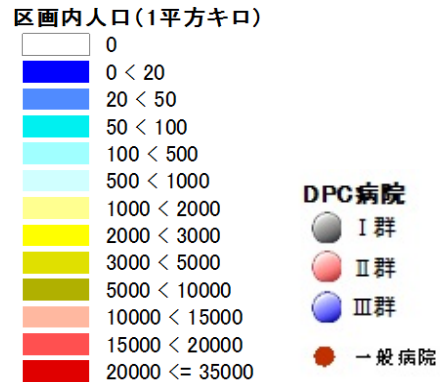
構成市区町村 [市川三郷町](#) [早川町](#) [身延町](#) [南部町](#)  
[富士川町](#)

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能  
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布(1km<sup>2</sup>区画単位)



1km<sup>2</sup>区画(1km<sup>2</sup>メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。  
 出所：国勢調査(平成22年、総務省)地図情報GIS Market Analyzer ver.3.7 地図 PAREAシリーズ



## (峡南医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

## 【地域の概要】

\*人口、面積など： 峡南(西八代郡市川三郷町、南巨摩郡早川町、南)は、総人口約53千人(2015年)、面積1,060km<sup>2</sup>、人口密度は50人/km<sup>2</sup>の過疎地域型二次医療圏である。

\*人口の将来予測： 峡南の総人口は2025年に43千人へと減少し(2015年比-19%)、2040年に30千人へと減少する(2025年比-30%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の11千人が、2025年にかけて11千人とほぼ変わらず(2015年比±0%)、2040年には10千人へと減少する(2025年比-9%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費： 峡南の一人当たり医療費(国保)は379千円(偏差値58)、介護給付費は314千円(偏差値68)であり、医療費は高く、介護給付費は非常に高い。

## 【医療の現状】

\*入院医療の充実度： 峡南の一人当たり急性期医療密度指数は0.68、一人当たり慢性期医療密度指数は0.6で、急性期の医療も慢性期の医療も少ない。

\*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が36(病院医師数38、診療所医師数32)と、総医師数、病院医師数はともに少なく、診療所医師数は非常に少ない。総看護師数の偏差値は39と少ない。

\*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は52で、一般病床は全国平均レベルである。全身麻酔数は0件である。峡南には、年間全身麻酔件数が500例以上の病院はない。

\*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は51と療養病床数は全国平均レベルである。

\*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値42と少なく、回復期病床数は0である。

\*精神病床の現状： 精神病床数は0である。

\*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は55で診療所数はやや多い。

## 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状： 峡南の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、733人(75歳以上1,000人当たりの偏差値27)と全国平均レベルを大きく下回る。そのうち、介護保険施設の定員が643床(偏差値47)、高齢者住宅等が90床(偏差値28)である。介護保険施設は全国平均レベルをやや下回り、高齢者住宅等は全国平均レベルを大きく下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、772人(75歳以上1,000人当たりの偏差値41)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設35、特別養護老人ホーム58、介護療養型医療施設なし(偏差値41)、有料老人ホームなし(偏差値37)、軽費ホームなし(偏差値43)、グループホーム35、サ高住36である。

\*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値32と非常に少なく、在宅療養支援病院は偏差値63と多い。また、訪問看護ステーションは偏差値44と少ない。介護職員(在宅)の合計は、81人(75歳以上1,000人当たりの偏差値39)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

\*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-39%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

(峡南医療圏) 2. 推移

【人口と医療需要】

峡南医療圏の総人口は、2005年63,466人が、2015年に52,771人と17%減少し、2025年の人口が42,699人と予測され、2005年→2025年の間に33%程度の減少が予測されている。

医療の需要(医療費ベース)は、2005年から2015年に9%減少し、2015年から2025年にかけて10%程度の減少が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

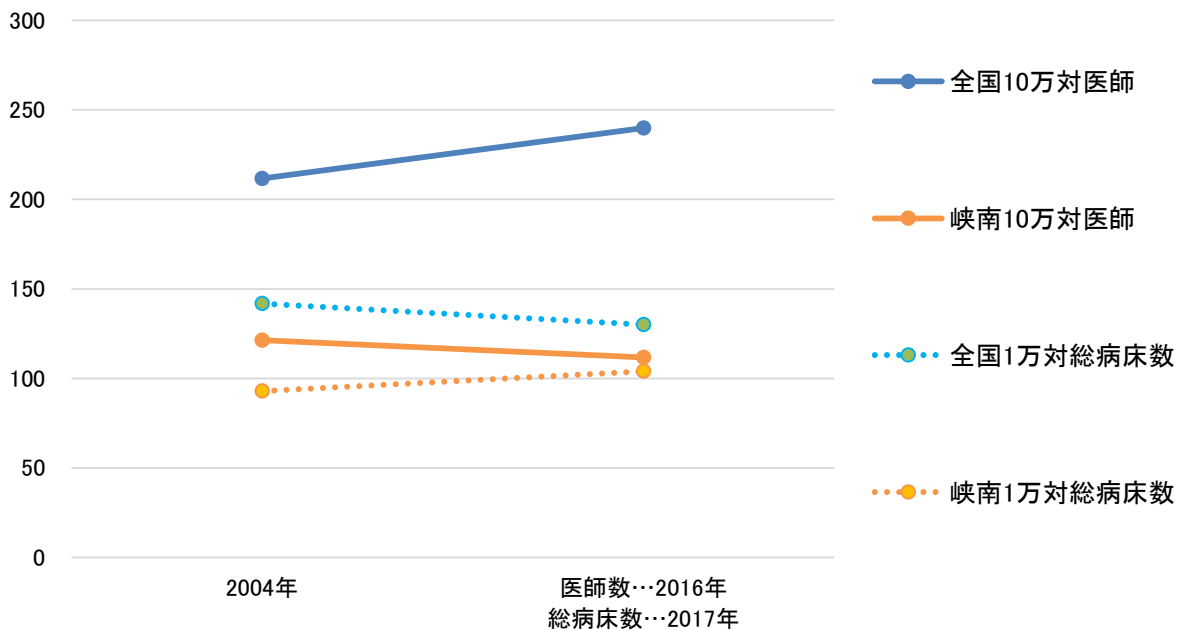
2004年の病院数が6(人口10万人当たり9.5病院(全国平均7.1)偏差値56)であったが、2017年に6(人口10万人当たり11.4病院(全国平均6.6)偏差値60)となり、13年間で増減がなかった。

2004年の診療所数が49(人口10万人当たり77診療所(全国平均76)偏差値51)であったが、2017年に47(人口10万人当たり89診療所(全国平均80)偏差値55)と、2診療所が減少した。

2004年の総病床数が590床(人口1万人当たり93(全国平均142)偏差値41)であったが、2017年に549床(人口1万人当たり104(全国平均130)偏差値45)と、41床の減少、率にして7%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

2004年には病院と診療所合わせての総医師数が77人(人口10万人当たり121人(全国平均212人)偏差値39)であったが、2016年に59人(人口10万人当たり112人(全国平均240人)偏差値36)と、18人の減少、率にして23%の減少(全国平均13%の増加)が見られた。

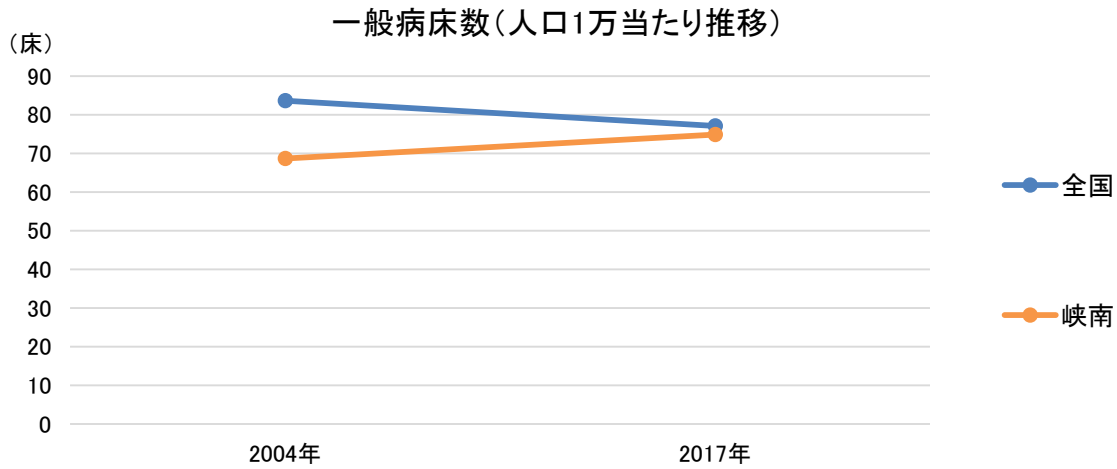
人口当たり医師数・総病床数の推移





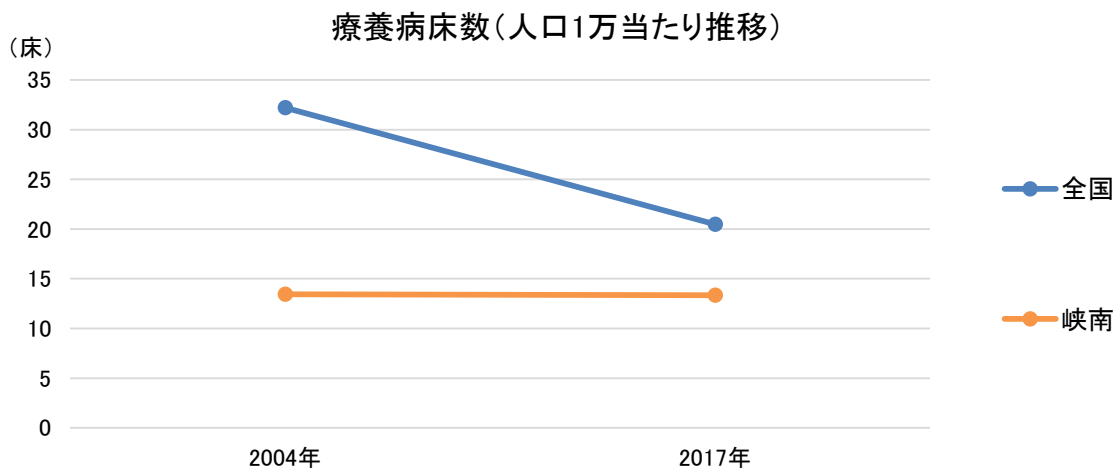
## 【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が436床(人口1万人当たり69(全国平均84)偏差値45)であったが、2017年に395床(人口1万人当たり75(全国平均77)偏差値49)と、41床の減少、率にして9%の減少(全国平均8%の減少)が見られた。



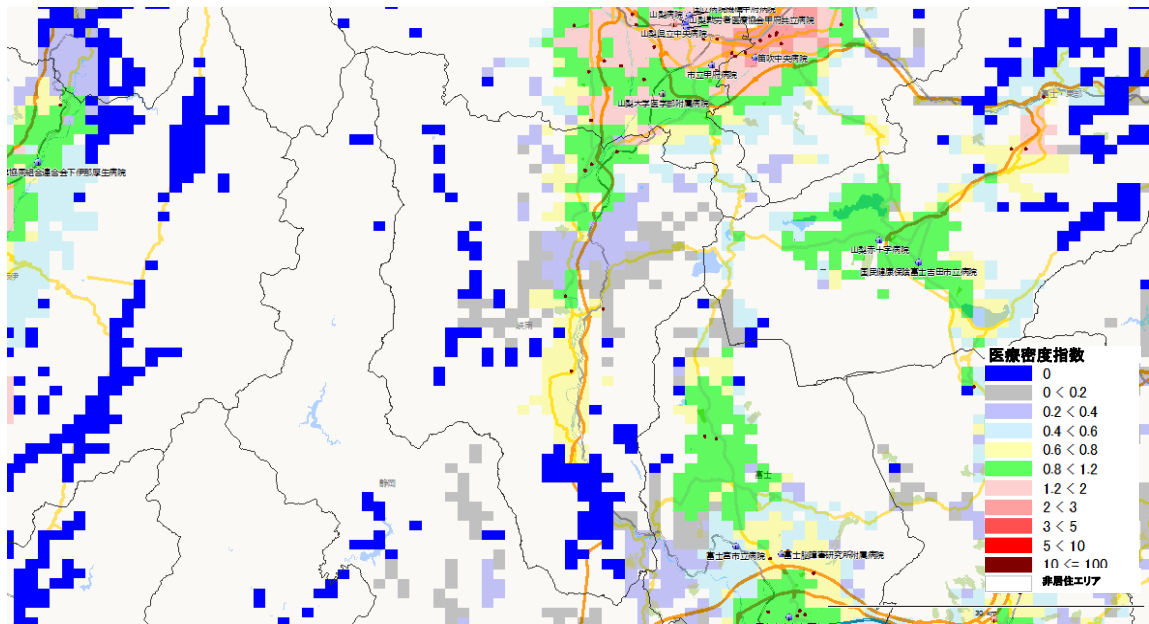
## 【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が150床(75歳以上1,000人当たり13(全国平均32)偏差値39)であったが、2017年に150床(75歳以上1,000人当たり13(全国平均20)偏差値44)と、増減がなかった(全国平均9%の減少)。



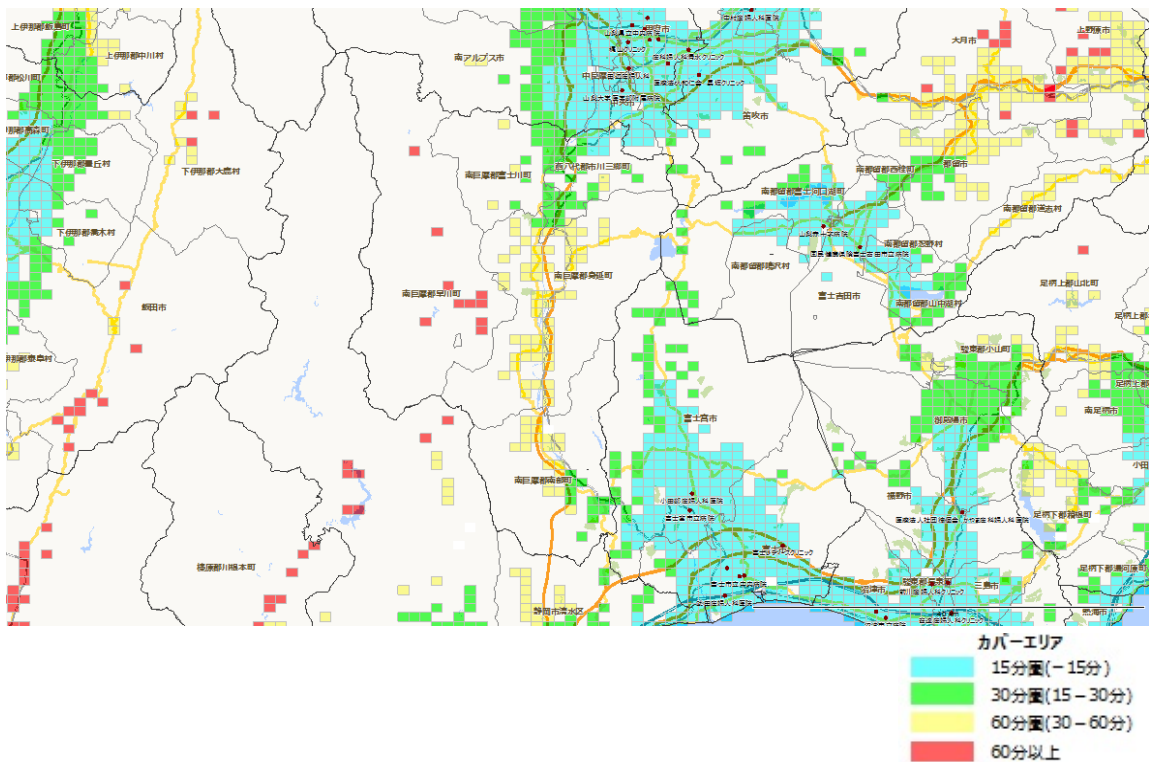
(峡南医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表19-3-1 急性期医療密度指数マップ



図表19-3-2 分娩医療機関への所用運転時間（カバーエリア）

※全国1km<sup>2</sup>メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関（病院と有床診療所）への運転時間を計算し、1km<sup>2</sup>メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの（「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照（日医総研WP no. 400）」）

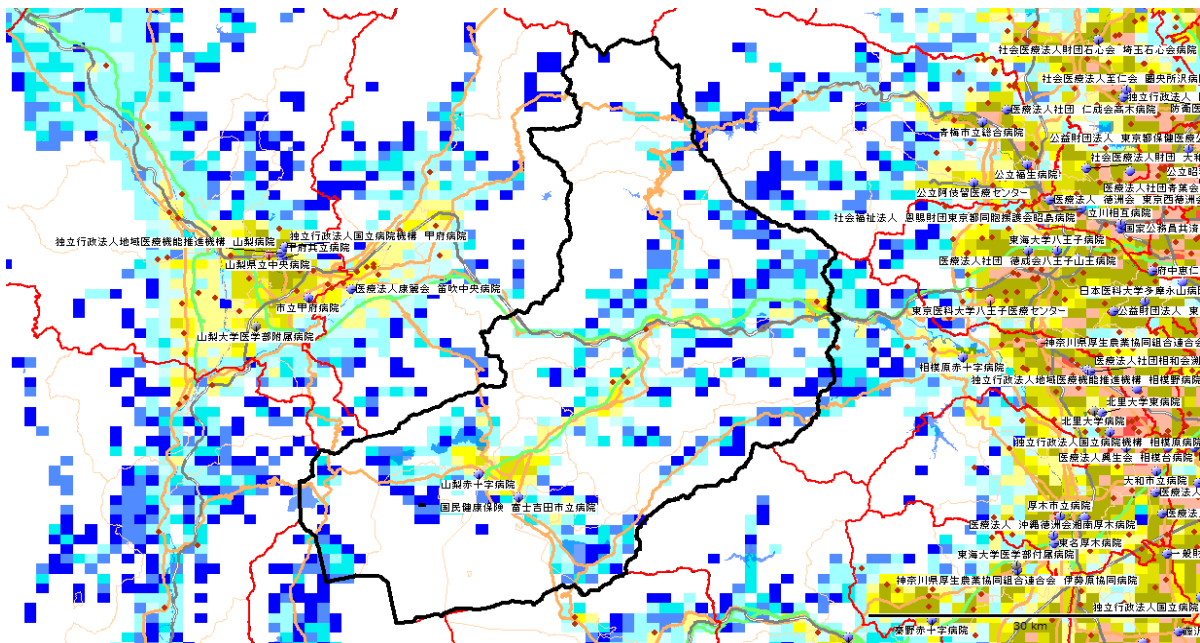


# 19-4. ふ じ と う ぶ 富士・東部医療圏

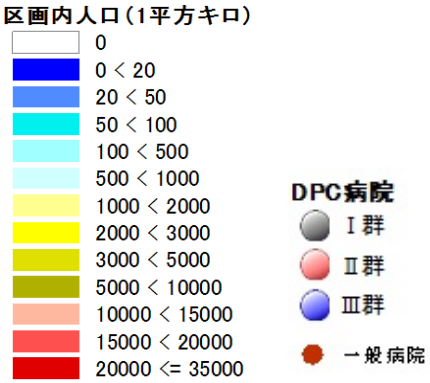
構成市区町村 [富士吉田市](#) [都留市](#) [大月市](#) [上野原市](#)  
[道志村](#) [西桂町](#) [忍野村](#) [山中湖村](#)  
[鳴沢村](#) [富士河口湖町](#) [小菅村](#) [丹波山村](#)

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能  
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布 (1km<sup>2</sup>区画単位)



1km<sup>2</sup>区画 (1km<sup>2</sup>メッシュ) で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く (10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル (1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない (1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。  
 出所：国勢調査 (平成22年、総務省) 地図情報GIS Market Analyzer ver.3.7 地図 PAREAシリーズ



## (富士・東部医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

## 【地域の概要】

\*人口、面積など： 富士・東部(富士吉田市)は、総人口約181千人(2015年)、面積1,309km<sup>2</sup>、人口密度は138人/km<sup>2</sup>の過疎地域型二次医療圏である。

\*人口の将来予測： 富士・東部の総人口は2025年に160千人へと減少し(2015年比-12%)、2040年に129千人へと減少する(2025年比-19%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の26千人が、2025年にかけて31千人へと増加し(2015年比+19%)、2040年には34千人へと増加する(2025年比+10%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費： 富士・東部の一人当たり医療費(国保)は335千円(偏差値47)、介護給付費は234千円(偏差値45)であり、医療費、介護給付費ともにやや低い。

## 【医療の現状】

\*入院医療の充実度： 富士・東部の一人当たり急性期医療密度指数は0.61、一人当たり慢性期医療密度指数は0.86で、急性期の医療は少ないが、慢性期の医療は全国平均レベルである。

\*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が39(病院医師数38、診療所医師数46)と、総医師数、病院医師数はともに少ない。総看護師数の偏差値は38と少ない。

\*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は42で、一般病床は少ない。全身麻酔数の偏差値は41と少ない。富士・東部には、年間全身麻酔件数が500例以上の病院はない。

\*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は42と療養病床数は少ない。

\*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値38と少なく、回復期病床数は0である。

\*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は52で精神病床数は全国平均レベルである。

\*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は49で診療所数は全国平均レベルである。

## 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状： 富士・東部の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、1,650人(75歳以上1,000人当たりの偏差値26)と全国平均レベルを大きく下回る。そのうち、介護保険施設の定員が1,401床(偏差値44)、高齢者住宅等が249床(偏差値29)である。介護保険施設は全国平均レベルを下回り、高齢者住宅等は全国平均レベルを大きく下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、1,601人(75歳以上1,000人当たりの偏差値35)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設49、特別養護老人ホーム44、介護療養型医療施設48、有料老人ホームなし(偏差値37)、軽費ホームなし(偏差値43)、グループホーム36、サ高住37である。

\*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値39と少なく、在宅療養支援病院は存在しない。また、訪問看護ステーションは偏差値30と非常に少ない。介護職員(在宅)の合計は、173人(75歳以上1,000人当たりの偏差値38)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

\*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-66%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、非常に多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

## (富士・東部医療圏) 2. 推移

### 【人口と医療需要】

富士・東部医療圏の総人口は、2005年198,158人が、2015年に181,029人と9%減少し、2025年の人口が160,161人と予測され、2005年→2025年の間に19%程度の減少が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年に3%増加し、2015年から2025年にかけて1%程度の減少が予測される。

### 【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

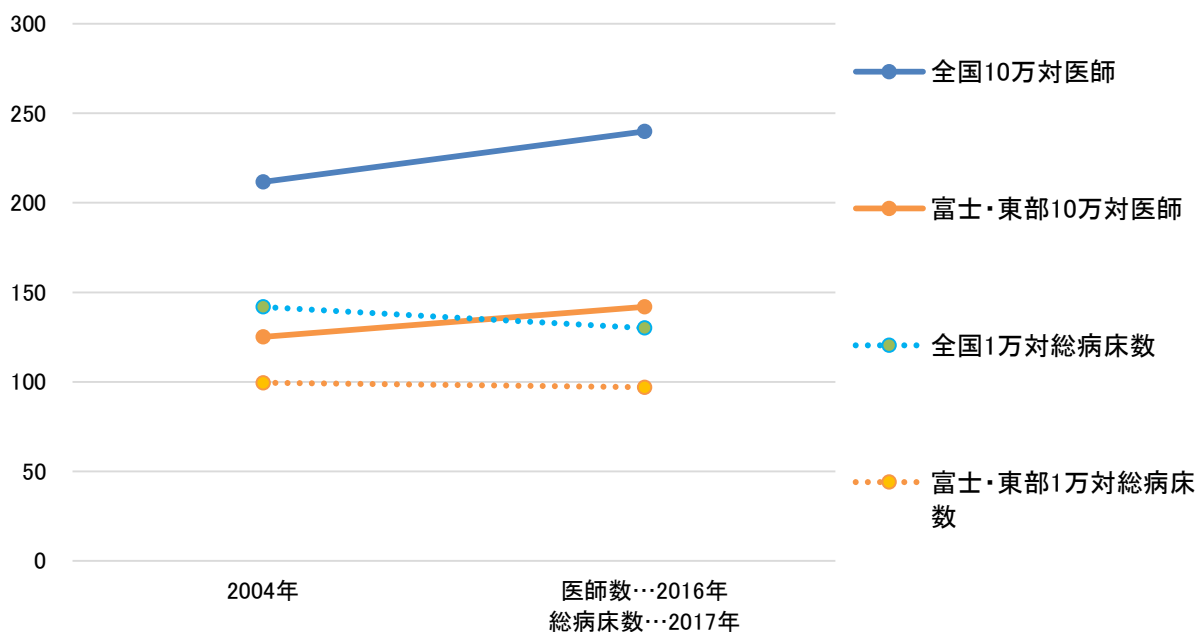
2004年の病院数が8(人口10万人当たり4病院(全国平均7.1)偏差値42)であったが、2017年に8(人口10万人当たり4.4病院(全国平均6.6)偏差値45)となり、13年間で増減がなかった。

2004年の診療所数が129(人口10万人当たり65診療所(全国平均76)偏差値45)であったが、2017年に142(人口10万人当たり78診療所(全国平均80)偏差値49)と、13診療所が増加した。

2004年の総病床数が1,972床(人口1万人当たり100(全国平均142)偏差値42)であったが、2017年に1,755床(人口1万人当たり97(全国平均130)偏差値44)と、217床の減少、率にして11%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

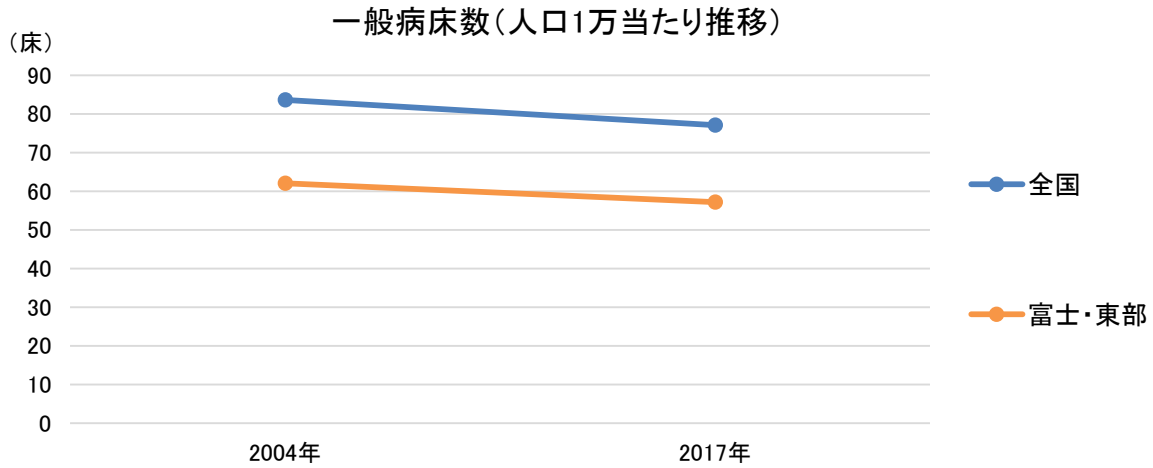
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が248人(人口10万人当たり125人(全国平均212人)偏差値40)であったが、2016年に257人(人口10万人当たり142人(全国平均240人)偏差値39)と、9人の増加、率にして4%の増加(全国平均13%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



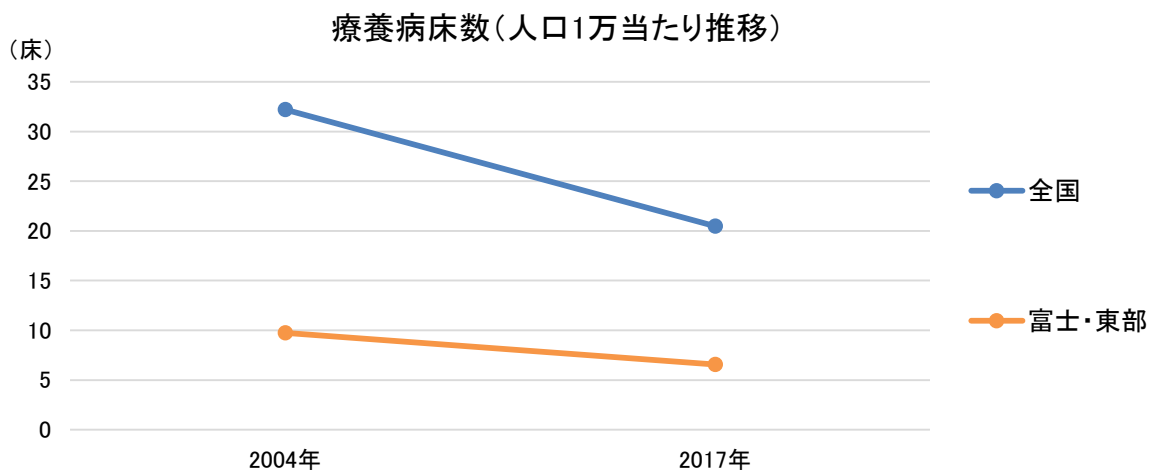
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が1,230床(人口1万人当たり62(全国平均84)偏差値42)であったが、2017年に1,036床(人口1万人当たり57(全国平均77)偏差値42)と、194床の減少、率にして16%の減少(全国平均8%の減少)が見られた。



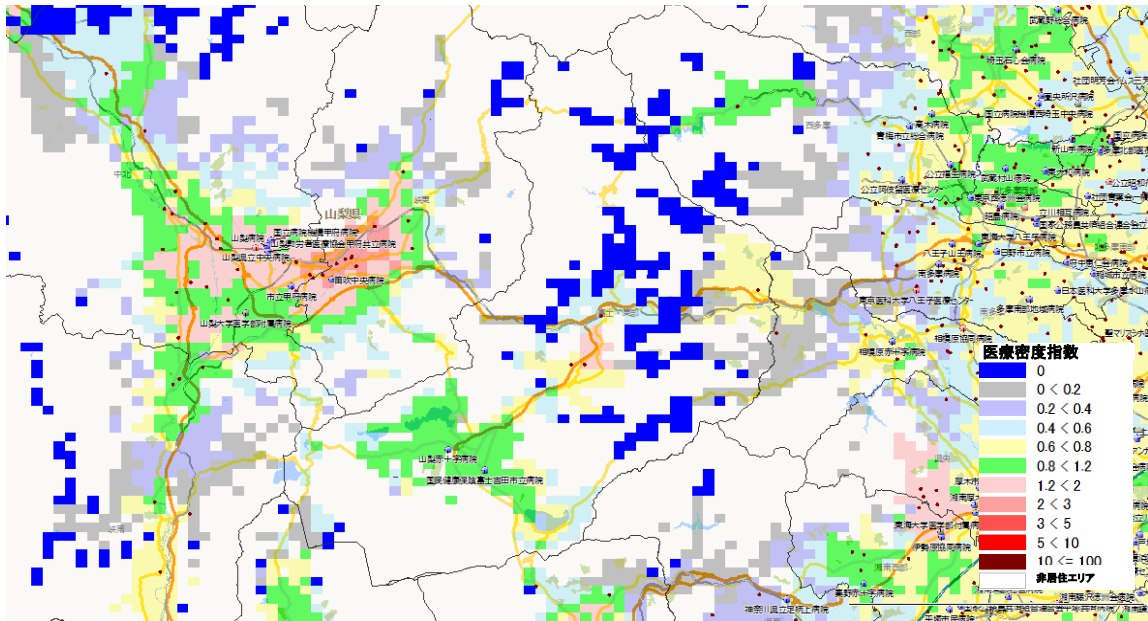
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が196床(75歳以上1,000人当たり10(全国平均32)偏差値37)であったが、2017年に169床(75歳以上1,000人当たり7(全国平均20)偏差値38)と、27床の減少、率にして14%の減少(全国平均11%の減少)が見られた。



(富士・東部医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表19-4-1 急性期医療密度指数マップ



図表19-4-2 分娩医療機関への所用運転時間 (カバーエリア)

※全国1km<sup>2</sup>メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km<sup>2</sup>メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400) )

